

初期コミンテルンとアムステルダム・ニューヨーク・メキシコシティ（下）

山内, 昭人

九州大学大学院人文科学研究院歴史学部門 : 教授 : 西洋現代史、インタナショナル（国際社会主義）史

<https://doi.org/10.15017/13883>

出版情報 : 史淵. 146, pp.91-151, 2009-03-01. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :



初期コミンテルンとアムステルダム・ ニューヨーク・メキシコシティ(下)

山内 昭人

はじめに

- 1 コミンテルン在外ビューローの構想および創設
 - 2 アムステルダム・サブビューローの創設および解散（以上、第145輯）
 - 3 パンアメリカン・エイジェンシー創設前史
 - 4 ニューヨークにおけるパンアメリカン・エイジェンシー
 - 5 メキシコシティにおけるパンアメリカン・エイジェンシー
 - 6 パンアメリカン・エイジェンシーの解散
- おわりに（以上、本輯）

3 パンアメリカン・エイジェンシー創設前史

パンアメリカン・エイジェンシーの前身の創設は、既述のようにアムステルダム・サブビューローにおいて検討されることになった。それにいきつく前史から以下、説明することにする。

メキシコでは、まず1919年9月7日にゲイル (L.A.E. Gale) によってメキシコ共産党 (Partido Comunista de México) が創設された（が、1921年4月半ばゲイルの国外追放により、同党は解体状態となる）。続いて、2カ月半後の1919年11月24日、メキシコ共産党 (Partido Comunista Mexicano) が全国社会党を改名してロイ (M.N. Roy)、ヘスス・ラミレス (Jesús Ramírez=Ch.F. Phillips; 後述) らによって創設された。創設にあたっては、同年10月にコミンテルンおよび外務人民委員部から派遣されてきたボロジンの影響が顕著であった⁽¹⁾。

ここで、ボロジンについて補足説明をしておく。

1918年8月初めに妻（Faina Berg=Ф.С. Бородина）と二人の子供をシカゴに残してロシアに戻ったボロジンは、翌9月レーニンの有名な「アメリカ労働者への手紙」のアメリカへの搬入仕事を担った⁽²⁾。

1年後の1919年9月初め、巨額の活動資金（約4万5千ドルおよび約50万ルーブリ相当の宝石類）を携行したといわれるボロジンは、サント・ドミンゴ（ハイチ）島からニューヨークへ上陸しようとし、それは許可されなかったが、家族に会うことが表向きの理由の一つであった⁽³⁾。そのあとボロジンはメキシコへ向かい、ロイ系メキシコ共産党創設に貢献するのだが、それは外交的体裁を整えてのものであった。すなわち、すでに1919年4月17日付でボロジンは、ロシアとの国交をラテンアメリカ諸国のうち唯一断絶していないメキシコにおけるソヴェト・ロシア政府の総領事に任命され、メキシコ駐露大使館を通じてヴィザを取得していた⁽⁴⁾。

そのまた1年後の1920年8、9月頃のアメリカ司法省捜査局（FBIの前身）報告書には、ボロジンがアメリカ合州国における外務人民委員部代表マルテンス（Л.К. Мартенс）の後任者の一人に目されたり、合州国と革命ロシアとの間の密使を務めていたとあり、また同年11月の同報告書では、メキシコシティに本部をもつコミンテルン「パン・アメリカン・サブ・ビューロー」を担当することになったとある⁽⁵⁾。

それらの情報の信憑性は高いとは言えないが、ボロジンの合州国ないしメキシコでの出没の噂は官憲報告で跡を絶たなかった。後述するように（注39）、実際1921年3月初め時点でパンアメリカン・エイジェンシーにおいてボロジンをアメリカ大陸へ再派遣するよう ИККИ へ要請することが検討されていた。

話を戻して、1919年11月末、ロイ系メキシコ共産党創設時にパンアメリカン・エイジェンシーの直前の組織ラテンアメリカン・ビューローが暫定的に創設された。それはボロジンの提案によるものであり、無署名の「第3インタナショナル・ラテンアメリカン・ビューロー宣言への序」には、こうあった。「同志 Boradin [sic] は全国社会主義大会〔1919年8月25日～9月4ないし5日〕の

祝賀直後にメキシコに到着し、その綱領と組織の革命的 성격について満足して彼は、ラテンアメリカの至る所で宣伝し、それらの国々のプロレタリア運動を統一し、そして社会革命のための道を敷くために第3 インタナショナルのラテンアメリカン・ビューローの呼びかけを提案した」⁽⁶⁾。

ロイ系メキシコ共産党書記長ホセ・アレン（José Allen）が同ビューローの書記長を兼ね、他のメキシコ人（Elena Torres & A. Ruiz）、たまたま当地と一緒に活動していたペルー人（L. Hurmachea）およびアメリカ人（Brewster = M. Birnbaum）から構成された。

1919年11月29日、ホセ・アレンは ИККИ 書記バラバノヴァに宛てて以下のような活動計画を知らせた⁽⁷⁾。メキシコ共産党はラテンアメリカ共産主義大会の招集を組織しはじめた。この大会を招集し、常設組織を設けるために「第3 インタナショナル・ラテンアメリカン・ビューロー」が開設された。『ソヴィエト』（*El Soviet*; 後述）がビューローの機関誌となり、将来『ラテンアメリカ共産主義者』と改称されるであろう。同誌を通じて全大陸の革命的運動の発展のためのプロパガンダが行われるであろう、と。

1919年12月8日には、ラテンアメリカン・ビューロー臨時委員会がラテンアメリカ勤労者への宣言を発し、その中で、ラテンアメリカ共産主義大会への参加やラテンアメリカン・ビューローの常設執行部の設置を呼びかけた⁽⁸⁾。

そのような計画の実現を待たず、ボロジンは帰路につき、1919年12月下旬ラミレスを伴ってスペインに着いた。さっそく12月23日からボロジンはラミレスを通訳にスペイン社会主義青年連盟およびスペイン社会主義労働党のレフトウィングと会談を精力的に重ねていき、二つの計画を推進していった。

一つは、「ソヴェト・ロシアと第3 インタナショナルに関するニュースをさまざまな国の労働者新聞に供給するために非公式なビューロー」をマドリッドに設立する計画であり、翻訳作業や加盟組織とのコミュニケーションを容易にするためフランス、イタリア、イギリス、スペイン、ラテンアメリカから各一代表がビューローに常駐することとし、途中からオランダからの一代表が加えられることになった（РГАСПИ, 495/120/250/3-4; 495/120/250/10-12）。

早くも1919年12月26日に、ビューローは「エイジェンシー真実——国際ニュース・サービス」(Agencia Verdad, Servicio Internacional de Noticias)と命名された。当面の活動資金としてラテンアメリカ代表となったラミレスおよびロシア代表となったボロジンがそれぞれ500ペセタを寄付したが(РГАСПИ, 495/120/250/5-6)、前者の出所もモスクワの金であろうから、結局のところ有力な外部資金をあてにしての運動であったことは否めず、1920年1月下旬にボロジンがラミレスを残して去ったあとビューローが機能した形跡はいまのところ確かめられない。

もう一つは、左翼ブロック案であり、そのための組織会議が1920年1月2日から始まった。スペイン社会主義労働党内の最良の左翼を「左翼ブロック」細胞として組織することが話し合われ、ボロジンは「厳密に助言的立場で」討論に参加した、と自ら記しているが(РГАСПИ, 495/120/250/16-17)、メキシコでもそうであったように、彼の影響なくして話は進まなかったであろう。

ボロジンが去ったあと、ラミレスによって1920年2月9日より左翼ブロック会議は再開された。3月5日にラミレスが提案したのは、「[社会主義青年連盟]執行委員会を第3インタナショナルの根本方針にもとづくスペイン共産党暫定執行委員会に変えること」であった。それは、(第2インタナショナル復興のための準備会議開催の遅滞に伴い、態度決定のためのレファレンダムを先送りしていた)社会主義労働党へのショック療法だったのだが(РГАСПИ, 495/120/250/53-56)、党創立大会を経ず内々に青年連盟執行委員会の掌握・改名をめざす言わば禁じ手であったろう(実は、この方法は後述するメキシコ共産党創立の場合にも適用されるけれども、その問題点を意識した改良の試みがなされる)。

1920年4月15日のスペイン共産党声明の公表、5月1日の(社会主義青年連盟機関誌『革新』を改名しての)党機関誌『コムニスタ』(*El Comunista*)の創刊を経ても、創立大会どころか、社会主義労働党の左傾化も進まず、資金不足にも陥っていた(Cf. РГАСПИ, 495/120/250/109; 495/120/250/98-100)。

運動の展開を見届けることなくモスクワに着いたラミレスは、1920年9月10

日に ИККИ 書記コベツキー（М.В. Кобецкий）宛の短い上申書を書いているが、そこには自らのスペインでの活動はボロジンに当地を去る時与えられた任務であり、5カ月とどまったことが記されていた（РГАСПИ, 495/120/250/151）。この時期、社会主義青年連盟書記メリノ・グラシア（R. Merino Gracia）もモスクワに赴き、9月20日には長文の「スペイン共産党の起源および創設についての報告」を仏文で記している。その中にあるボロジンに関する記述だけを取り上げると、彼がやって来た時、スペイン社会主義労働党は第2国際ナショナル支持の多数派とコミンテルン即時加盟を求める少数派とで争っていた。「同志ボロジンは党内闘争のための確固たる行動方針を残すことができないままマドリードから去った」。「我々の共産党はまだその第1回創設大会を開いていない」とある（РГАСПИ, 495/120/204/65-76）。裏を返せば、スペイン左翼は「指示と資金待ち」であったと言えよう⁽⁹⁾。

ここで話をアムステルダム・サブビューローとの関係に絞ると、1920年1月4日にマドリードからボロジンはアムステルダム・サブビューロー（リュトヘルス）へ、南北および中央アメリカと西インド諸島の代表によるラテンアメリカ大会を招集するためメキシコに一ビューローが形成されたことを伝えた。そして大会の主目的は、すべての革命分子を統一して第3国際ナショナルのラテンアメリカ支部を形成することであった。大会準備のために『ソヴィエト』が刊行されはじめ〔厳密には『ソヴィエト』はラテンアメリカン・ビューローの機関誌ではなく、メキシコ共産党および同ビューロー創設以前に社会党内の「赤い兄弟グループ」によって刊行された〕、またマドリードでも国際情勢との一定の接触を保つ目的のために一ビューローを組織しつつあることも伝えられた⁽¹⁰⁾。

マドリードを去ったボロジンは、1920年1月末頃ビルバオからアムステルダム・サブビューローへ次のように繰り返した（РГАСПИ, 581/1/62/197）。ここでの一ビューローの考えはまったく廃棄されるべきではない。スペインは中南米との接触のためのすばらしいポイントであろう。同ビューローはオランダ・ビューローから得られたすべての情報を翻訳し、それをさらに遠くへ伝え、そ

して指図されたような他の機能を果たすであろう、と。

その考えはアムステルダム・サブビューローに歓迎された。1920年2月15日、リュトヘルスはサブビューローを代表してボロジンに次のように返答した。「我々はニュースと情報を配布し、ロシアとこれらの国々との間の連結環（a connection link）を形成する目的のためにスペインとの、およびそれを通じてメキシコとパンアメリカン・ビューローとの関係を維持するつもりである」。『ソヴィエト』の刊行を支持するけれども、手元に資金がなく、ベルリンにある我々の資金が送られてきた場合、メキシコへいくらか送金するであろう、と⁽¹¹⁾。

ここに、モスクワからアムステルダム、その先のマドリードまでのネットワークが、さらに同じスペイン語圏であるスペインとメキシコとのつながりから大西洋を跨いでアメリカ大陸までのネットワークが構想されていた⁽¹²⁾。

なお、アメリカ大陸の運動とアムステルダム・サブビューローとの結びつきの背景として、リュトヘルス-片山-フレイナ・ルートばかりではなく、リュトヘルス-ボロジン・ルートがここに加わったことに関連する一例をあげておく。ロイ夫妻は偽名（Roberto Allén & Helen B. de Allén）でメキシコ共産党から得たコミンテルン第2回大会への1920年1月12日付信任状を携えてモスクワへ向かう途中（РГАСПИ, 489/1/30/2； 489/1/30/88）、ベルリンでボロジンと落ち合う予定であったが、先発したボロジンの指示でロイは、アムステルダム・サブビューローと接触をとるため1920年4月18日付長文書簡をリュトヘルスへ送った。その中で、「ついに我々は、同志ボロジンの忠告によれば我々がそこからすべての指示を期待するつもりであるオランダ・ビューローの管轄下に自らを置くことをあなたに知らせたい。我々は当地の〔西欧〕書記局に決して説明する義務はない」と記されるほどの関係が成り立っていた（РГАСПИ, 497/2/9/3-5）。

さらに5月21日には、アレン（ロイ）はR[utgers]. へ興味深い提案を行った（РГАСПИ, 497/2/9/16-17）。すなわち、いかなる死活問題も西欧だけで解決は不可能であるとのリュトヘルスと共有する考えのもとに、合州国への攻撃はその背後のラテンアメリカから、西欧帝国主義への攻撃はアジアの植民地から、

それぞれ組織されなければならず、この確信ゆえにラテンアメリカン・ビューローが構想されたし、同様にペルシャかアフガニスタンなどに東方ビューロー（an Eastern Bureau）が創設されることを提案する、と。続けて、リュトヘルスにアジアでの経験があり、最近のアムステルダム・ビューローへの ИККИ による解散決定ゆえに、彼もロシアへ来て、アジアのビューローについて我々が議論するのを助け、そのようなビューローが設立された場合、彼がそれを率いることをも提案するが、ボロジンも本提案を支持するであろうとの見込みが添えられた。

1920-21年の冬イタリアで静養を余儀なくされるリュトヘルスは応答どころではなくなるけれども、コミンテルン第2回大会出席を機にタシケントに「中央アジア・ビューロー」開設をめざして活動することになる⁽¹³⁾ロイにとって、そのような構想はすでにリュトヘルスとの意見交換の中で芽生えていたことになる。

1920年2月初めアムステルダム・サブビューロー主催の国際会議で南北アメリカのためのアメリカン・サブビューロー創設とパンアメリカ会議の組織化に関する決定がなされたのだが（上篇、22頁）、その会議の模様を詳しく紹介したマーフィのマクマナス宛2月15日付長文書簡には、スペイン、メキシコに関連する記述が以下のようにあった（РГАСПИ, 581/1/110/20-35）。

我々はここ〔オランダ〕からアメリカへ送られるべき資料の送達のために彼の地〔スペイン〕に一ビューロー〔上記〕を形成する報告を得た。メキシコにおいて汎アメリカ共産主義会議が、第3インタナショナルのアメリカン・ビューローを設立する目的のために招集されている。これらのビューローすべてはもちろんモスクワの E.C.〔ИККИ〕に従属する。片山が極東においてそのような組織の発展を企てる準備がなされるべきである、と。

アムステルダム・サブビューロー主催の国際会議での決定は、フレイナによる仮報告という形で1920年3月17-20日のアメリカ共産党（CPA）中央執行委員会（CEC）会議に伝えられ、その中にはパンアメリカン・ビューロー（Pan-American Bureau）を暫定的に組織するための CPA への権限付与が含まれて

いた。それを受けて、CEC 会議は以下のように決定した(РГАСПИ, 515/1/31/8-18)。

第3 インタナショナルのオランダ会議の認可に従って我々は、CPA の3 メンバー、メキシコのラテンアメリカン・ビューローの1 代表、そして南アメリカからの1 代表から成るコミンテルン・パンアメリカン・ビューローを暫定的に組織する。／同志アンドルー〔ズ〕〔J. Andrew(s)=Н.И. Гурвич (N. I. Hourwich)〕、デイモン〔D. Damon=Ch.E. Ruthenberg〕、ラファエル〔A. Raphael=A. Bittelman〕が、その仕事を直ちに進めるための権限をもってビューローの CPA メンバーに選出された。／ビューローの組織化に関して声明を早速出すことがビューローに勧められた。……

最後の項目に関して4月5日の機関誌に公表された記事を見ると、3月25日ニューヨークに組織されたその暫定組織を CPA の3 メンバー〔無記名〕が担うことになり、「常設ビューローが設立されるであろう会議を招集するため連絡がつくやいなや南アメリカ諸党の1 代表がビューローのメンバーに加わる」とある⁽¹⁴⁾。

かかる進め方は、早速もう一つのアメリカ共産主義労働党 (CLPA) からの批判を招いた。1920年4月7日に同党事務局長ワーゲンクネヒト (A. Wagenknecht) は、次のような書簡をアムステルダム・サブビューローへ送った (РГАСПИ, 497/2/2/117)。CPA は、アムステルダム会議から第3 インタナショナル・パンアメリカン・ビューローを「条件付きで」組織する権限を受け取ったと機関誌で公表している。我々はアムステルダム・ビューローから、いかなる条件下でこの権限が CPA に発されたのか知りたい。CPA 機関誌がその権限付与を署名とともに公表していないのは、奇妙にみえる。CPA はまた、汎アメリカ会議を招集中であると公表しているが、しかし CLPA は招待されていないのも、また奇妙にみえる、と。続けて4月22日にワーゲンクネヒトは、CLPA の頭越しにもっぱら CPA にそのような権限を発したアムステルダム会議の行動に抗議する書簡を送った⁽¹⁵⁾。

このパンアメリカン・ビューロー創設はすぐにメキシコにも伝えられ、ゲイ

ルはロンドンのシルヴィア・パンクハーストへ1920年4月13日付書簡で次のように伝えた(РГАСПИ, 497/2/5/9-12)。メキシコシティに同ビューローを創設するという提案は当地で熱烈な支持を得たが、しかしその創設にあたって『ソヴィエト』を刊行したグループとの共同がなされるべきだ、とのCPAからの指示に猛反発している、と。

かくして、アメリカ帝国主義への闘争のため西半球のプロレタリアートを組織するための最初の行動が起こされた。とはいっても、CPAはCEC国際関係委員会の名で、すでにИККИ決定により一方的に解散させられていた(上篇、32-33頁)アムステルダム・〔サブ〕ビューローへ、次のように準備不足を露呈する書簡を送った(РГАСПИ, 497/2/2/216)。「我々はパンアメリカン大会についての仕事に着手したいが、しかしそうする前にメキシコ・サブビューローについてとくにその活動について、そしてその団体の人員を知らないので誰と我々は接触すべきかの追加情報を得たい」と。

その日付なしの書簡は7月8日にリュトヘルスによって受け取られ、内容からそれへの返答とみられる日付なしの書簡がリュトヘルスによって送られた(РГАСПИ, 497/2/2/260)。私〔リュトヘルス〕はメキシカン・ビューローについて情報を与えることができない。なぜならば当地のいく人かの名前を知っているが、去った人もおり、全体の状況は大変変化しつつあるので、遠くから信頼に足る情報を与えることは実際に不可能である。唯一の方法は、状態と人物を判断でき、自ら〔ママ〕見い出すことのできる完全に信頼できる人物をそこへ送ることであろう。このことはさまざまなグループや意見がはびこっているので非常に困難な任務であろうが、と。

あくまでもパンアメリカン・ビューローの組織化は現地の活動家に委ねられたのである⁽¹⁶⁾。

メキシコのラテンアメリカン・ビューローの方もまた、それまでの活動を踏まえ1920年8月8日に機関誌『共産主義ブレティン』をディアス・ラミレス(M. Díaz Ramírez)を編集長に創刊し、改めて創刊号においてCPAの後援の下に汎アメリカ共産主義会議をメキシコで招集する権限が与えられたことを表明

し、「第3 インタナショナルの将来の大会においてそのふさわしい代表権を確実にするため、アメリカの共産主義諸組織を集結させ、統一すること」などあらかじめ6項目の主目的を掲げた。

その第5項目には「日本と極東におけるプロパガンダを広め、関連づける目的で日本人の仲間との共同を得ること」とあり、アメリカン・サブビューローの創設に関する決議の中でその職務の一つに掲げられていた日本および極東との連絡（上篇、22頁）を、メキシコのビューローが引き継ごうとしていた⁽¹⁷⁾。

かくして二つのビューローが連絡を十分取り合わないままそれぞれ活動することになったが、その上に ИККИ パンアメリカン・エイジェンシーの創設がモスクワで決定される。解散させられたアムステルダム・サブビューローの決定よりも ИККИ の決定が優先するのは当然で、資金不足も重なって汎アメリカ共産主義会議開催の目処がたてられない両ビューローは、資金豊富なパンアメリカン・エイジェンシーに取って代えられていく。

4 ニューヨークにおけるパンアメリカン・エイジェンシー

1) 創設決定

創設されたばかりのコミンテルンにとって、1919年9月初めに創設されたアメリカ共産主義両党の統一が緊急課題の一つとなった。その統一を重要任務とした ИККИ 附属パンアメリカン・エイジェンシーの創設が、1920年9月にモスクワで決定され、1921年初めに実質的な活動に入ることになる。最初にパンアメリカン・エイジェンシーの正式創設が決定される経過をみていくことにするが、あらかじめ断っておくと、以下三つの章に関してすでに私は『コミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシーの基礎的研究』においてほぼ時系列で概括的な説明を果たしている。それゆえ以下では紙幅の関係もあり、一部割愛したり摘記要約にとどめたりしている。

1920年8月初め ИККИ 会議において、ヨーロッパの在外ビューローの解散と同時にアメリカと極東において新たなビューローを任務を限定して設置するこ

とが決定されたことは、既述した（上篇、37-39頁）。その決定を受けて、9月29日 ИККИ 小ビューロー会議の第5議題「アメリカの運動の諸問題」の中のアメリカ共産党統一問題などに続く「4）メキシコにおけるビューローについて」において、「以下のビューローのスタッフ、すなわち同志片山、フレイナおよびヤンソン〔K. Jansons〕が確認される」⁽¹⁸⁾。

ここにアメリカン（パンアメリカン）・エイジェンシーの陣容が整った。片山はすでに、1920年8月8日の ИККИ 小ビューロー会議でメキシコの代表（原文では、代理人）に指名され⁽¹⁹⁾、続いて、8月下旬から「南アメリカ問題」が審議されていた小ビューローの9月7日会議で同問題についてなされた決定のうち、アルゼンチン国際社会党「および共産主義連盟に同志片山を通じて財政的援助を与え、またもしも彼が必要と認めたならば、サンディカリストの連盟にも」という重要な役割が彼に与えられていた⁽²⁰⁾。その上に片山はエイジェンシーに加わるのだが、かかる片山抜擢の背景には最初の提案者であるフレイナの片山との盟友関係があったと推定される。

1920年10月12日の ИККИ 小ビューロー会議の第1議題「ИККИ アメリカン・エイジェンシーの任務」の中で、フレイナとヤンソンの以下の原案が提起され、承認された⁽²¹⁾。

コミンテルン両大会の決議に厳格に従い、ИККИ のすべての決定を実現しなければならない（在メキシコ）アメリカン・エイジェンシーの活動範囲に、文献、情報等の配給のほか、さらに以下の任務が入るだろう：

1）共産主義的党・グループの、まだそのようなものが存在しない国々における創設、およびすべてのアメリカ諸国の共産主義的党・グループの行動の統一を支援する；

2）コミンテルン加盟の党に資金援助を与える；すべてのアメリカの党は執行委員会によってアメリカン・エイジェンシーを通じて補助金を与えられる；

3）スペイン語で『共産主義インタナショナル』をロンドンの出版社と連絡を取って刊行する。

初期コミンテルンとアムステルダム・ニューヨーク・メキシコシティ（下）

アメリカン・エイジェンシーは3カ月で10万〔ドル〕支給され、この総額から3万5千ドルが即刻費消される。

1920年11月1日には“C”のイニシャルでアメリカ統一共産党 CEC へ指示文書が出された。著者は CPA の ИККИ 代表カー（J. Carr）ことカターフェルド（L.E. Katterfeld）とみられる。そこには、こうある（なお以下、全訳ではなく抄訳が多くなるが、逐一断ることはしていない）。

ここでの指示が正式にあなたがたに伝えられる。それらは片山とヤンセン〔ヤンソン〕とともに実行されるべきである。

〔以下、1．労働組合および2．黒人〔大会〕が続く。〕

……／前者の（2名から成る）委員会は、もし K. と J. の両方によってそれと反対に指示されない限り、情報の確保を越えていくことはできない。スピードは不可欠である。作業は2ないし3週間で完了されるべきである。

……／後者の（同じく2名から成る）委員会は、情報を確保するだけをしなければならない、……絶対に ИККИ からの指示があるまでプロパガンダをしてはいけない⁽²²⁾。

この指示は、片山とヤンソンが名指しされているように、まさしくパンアメリカン・エイジェンシーの存在を前提としたものであった（この時まだ指令系統の混乱は兆していないことに留意）。

2）コミンテルン執行委員会とアメリカ共産党統一問題

パンアメリカン・エイジェンシーの活動開始をみていく前に、エイジェンシーの任務のうち最大の困難に遭遇することになるアメリカ共産主義両党の統一問題が、1919年末以来モスクワの ИККИ で検討され、対策が練られていたことに触れておく。

アメリカ共産党統一問題は、早くも1919年11月11日の ИККИ ビューロー会議の第14議題「アメリカ共産主義〔両〕党の相互関係について」で議論され、12月1日の同会議の第3議題「アメリカ共産党における分裂」で再度議論され、そして12月7日の同会議は、訪露していたリード（J. Reed）とアンダーソン（J.

P. Anderson=K. Beika)⁽²³⁾を交えてこの問題だけで開かれ、以下が決定された（РГАСПИ, 495/1/1/82-83； 495/1/1/85； 495/1/1/88）。

1) 一つのアメリカ共産党へ統一することを両党に提案するため、両派の代表からなる全体大会を招集する。

2) ベールジンとメニショイ（А. Меньшой）⁽²⁴⁾に書簡（両党宛と各党個別宛）の作成を委任する。

3) リードとアンダーソンにブハーリンも参加して党統一の契約案の作成を委任する。

4) リードに IWW へのピラ作成を委任する。

それらの委任は取り決めどおり短期間で果たされ、1919年12月23日の ИККИ ビューロー会議の第1議題「アメリカにおける事業の状態について」において、以下が決定された（РГАСПИ, 495/1/1/106）。

1) アメリカ共産党への〔コミンテルン執行〕委員会書簡草稿を修正し、また党の非合法活動に関する行を加えて採択する。書簡は『共産主義インタナショナル』（КН）に掲載される〔下記〕。

2) リードによって作成された IWW〔メンバー〕への〔加盟呼びかけの〕アピールを採択する。それは КН に ИККИ の名で掲載される⁽²⁵⁾。

3) アメリカ共産主義〔両〕党の統一に関して委員会によって作成された契約案を採択し、両党の代表リードとアンダーソンが署名し、それから署名なしで КН に公表する⁽²⁶⁾。

この CPA と CLPA の統一のための合意は、実際モスクワでなされた。日付のない文書に署名したのは、CLPA の国際代表のリードと、ロシア、ラトヴィヤ、ウクライナ、ポーランド、リトアニア連盟のソヴェト・ロシアへの派遣代表アンダーソンであった。

第一番目の書簡は、ИККИ 議長ジノヴィエフ署名のアメリカ共産主義両党中央委員会宛1920年1月12日付文書となった⁽²⁷⁾。それには、こうある。

アメリカから到着した同志たちの報告から ИККИ は、アメリカの同志間の意見の相違から両党を形成するに至った経緯を知る機会を得、以下の結論に達し

た。分裂は綱領に関するいかなる意見の相違から引き起こされたのではなく、戦術および組織の問題についていくらかの相違があるだけだ。両党がコミンテルンの綱領の上に立つ限り、統一された党は可能であるだけでなく、絶対に必要である。即時の統一の必要性は、以下の事実によってさらにいやおうなく命じられる。すなわち、CPA は「民族別」連盟を包含する主として外国人の党であり、CLPA は主としてアメリカ人もしくは英語を話す分子を代表している。もしも前者が理論的により発展し、ロシア労働階級の革命的闘争の伝統とより密接に結びつけられるならば、その一方でアメリカ労働者の大衆運動と大衆組織からより孤立化する。後者は難解なマルクス主義理論への訓練を少ししか受けていないし、ある程度の知的案内が必要であるにもかかわらず、アメリカ労働者により容易に影響を及ぼす利点をもっている。かくして両党は互いに補いあっており、彼らの統一によってのみアメリカにおいて大衆運動および来たる共産主義革命をリードするのに効率的な共産党を創造することができる。かかる判断にもとづいて ИККИ は、その決定が両党を拘束するであろう合同会議を両党が即刻招集することを提案する。その会議は ИККИ によって準備・招集され、また両党の作業の調整のために同数から成る組織ビューローが提案される。

以上の判断と提案こそ、まさしくパンアメリカン・エイジェンシーが ИККИ によって指令され、活動していく基礎となるものであった。

合州国本国においては、統一に向けての動きはすでに1919年12月半ば時点で始まっており、各党から当初2名ずつの交渉代表が選出された(РГАСПИ, 515/1/22/1-2)。かかる交渉をめぐって CPA 内に亀裂が走った。CPA から交渉に参加していた執行委員会書記ルーセンバーグ、ファーガソン (I.E. Ferguson) らが、1920年5月26-31日にミシガン州ブリッジマンで CLPA との合同大会を開き、アメリカ統一共産党 (UCPA) を組織した (最初は共産党の32代表、共産主義労働党の25代表からなる予備大会が開かれ、5月27日に二つの大会が合同した) (Cf. РГАСПИ, 515/1/25/1-2)。

UCPA 形成の知らせは、同党代表としてコミンテルン第2回大会のさなかモ

スクワに到着したリンドグレン (E.I. Lindgren) によって直に伝えられ⁽²⁸⁾、それを受けて ИККИ は1920年8月8日に以下を決議した。アメリカの統一共産党と「統一に加わらなかった」共産党は、直ちに合併し、コミンテルン第2回世界大会の決定にもとづいて一つの党を形成しなければならない。この統一は最終的に2カ月間で、すなわち遅くとも1920年10月までに果たされるべきである。この決定に従わないいかなるグループもコミンテルンから排除されるであろう、と (РГАСПИ, 515/1/17/24)。

なお、同決議の細部が異なる再録文書によれば、その期限が「10月10日まで」と明記されていた⁽²⁹⁾。この期限はまた、(アメリカから到着した CPA の H.F. 「グールヴィチ」も出席した) 1920年9月20日の ИККИ 会議で、1921年1月1日までに延期される⁽³⁰⁾。

3) 活動開始

アメリカ合州国におけるパンアメリカン・エイジェンシーの活動開始期の第一次史料は、意外と見つけがたい。もっとも詳しい説明とみられるのは、片山の R[utgers].宛1921年4月12日付書簡での記述であり、それにはこうある⁽³¹⁾。

1920年末に私〔片山〕は、P.A.C.〔Pan-American Council (パンアメリカ評議会)；下記〕のためにいくらかの資料を集める仕事をする任務を得た。それは M[oscow].の S.〔Ch.E. Scott＝ヤンソン〕と F[raina].の署名のある書簡の形で来たのだが、両党の分裂と対立のおかげで到着後3週間も私に通知されず、そのコピーを私が得たのはほとんど12月も終わろうとしていた。我々は直ちに仕事を始めたが、しかし一方の党〔CPA〕が正式に委員会を構成できないほど我々をまったくボイコットした。かくして事態は1921年1月8日まで引きずられ、その日、スコットが私の信任状〔複数形に留意〕をもって到着し、それで我々は我々に割り当てられたビジネスを組織しはじめた、と。

ここで、レジス (A. Resis) の先駆的研究に依拠して、プロフィンテルン創設の経緯について触れておく⁽³²⁾。

実は、コミンテルンは創立大会において労働組合問題について明確な決議を

なさず、ポリシェヴィキはその問題へ関心を向けなかった。革命的オポチュニズム〔≡「世界革命」論〕が労働組合のような労働階級の伝統的な大衆組織を通じての戦術をポリシェヴィキに軽視させた。しかし、この立場は短命に終わった。1919年8月にハンガリー革命が敗北し、同年7-8月にアムステルダムで戦後最初の大会を開くことによって再興した国際労働組合連合（IFTU；通称アムステルダム・インタナショナル）に対抗するために（別言すれば、第2インタナショナル復興に対抗して第3インタナショナル創設がめざされたのと遅れさせながら併行して）、「赤色労働組合インタナショナル」がジノヴィエフらによって提唱されていく。1920年初めには、ドイツから戻ったラデクを推進役として果たされた「右」への政策転換（上篇、29-31頁）を機にコミンテルンは、左翼労働組合新設よりはむしろ既存の労働組合内での左翼多数派形成を図るという戦術を採用することになる。

かくしてまず、国際労働組合評議会が1920年7-8月のコミンテルン第2回大会閉幕後暫定的にモスクワで組織された。1921年6-7月のコミンテルン第3回大会に連続して7月に開かれた創立大会において正式に赤色労働組合インタナショナル（プロフィンテルン）が実現していく。けれども、それを待たずに国際労働組合評議会は、コミンテルンがパンアメリカン・エイジェンシーを創設したのと併行して、パンアメリカ評議会（以下、ACと略記する場合がある）の創設をめざした。同評議会は、その仕事を実行するためにアメリカン・ビューロー（AB）を組織していく。

上記信任状の複数形は両在外組織への信任状であったからであろう。両組織はともに活動を始めたものの、以下で示されるように、両議長を片山が務めるなど数少ないメンバーによる兼務を免れず、時には名称を使い分ける程度のものであった（Cf. ПГАСПН, 495/18/66/16-17）。ただし、両組織の活動次元は異なっており、そのため、1921年3月3日にアメリカン・エイジェンシー議長ヤヴキ（Yavki=片山）が両共産党執行部へ、国際労働組合評議会のABのこの国の共産主義両党とのつながりへの言及が各機関紙でなされないことは強制的であると訴えたのは、ABが合法的に行動しており、それは共産主義的業務

であるとの当局の非難にさらされないための要請であったからである（РГА-СПИ, 495/18/65/45）。

なお、パンアメリカン・エイジェンシーの名称もパンアメリカ評議会の名称も、アメリカ合州国においてはしばしば「パン」を省いて使用された。時として、その表現の中に中南米を意識の外におく問題が生ずることになる（後述）。

アメリカ共産党統一問題は、最後通牒の期限であった1921年1月1日までに解決されるどころではなかった。上記片山の R.宛書簡は、以下のように続く。

我々はまさにスタートからいくつかの困難に遭遇した。我々がメンバーを AB に任命した時、彼はたまたま〔共産党〕統一に賛成であった。それで彼は党〔CPA〕から追放され、我々の仕事において同党との共同は困難となった。

彼とはヘンリ・アレンことコーエン（H. Allen=M. Cohen）であり、彼がエイジェンシーの一員となったことにより、エイジェンシーの関与にとってただでさえ困難な統一問題にコーエン問題が加わるようになった。ここではその経過を逐一追うことはしないが⁽³³⁾、1921年1月16日にコーエンが草した、党統一問題で CPA から追放されたことについて訴える「共産主義インタナショナル執行委員会へのアピール」だけを取り上げる（РГАСПИ, 515/1/61/18-20；515/1/61/21-23）。その中で彼は、統一問題の背後に、統一された党がとる将来の組織形態の根本問題、すなわち外国語連盟の古い問題が横たわっており、不幸にも「連盟のコントロール」は不可避免的にアメリカの運動への「左翼共産主義的」政策を伴ってきたし、伴っている、とみた。

かかる把握は、以下で取り上げられるように、的を射ていたとみなされる。

パンアメリカン・エイジェンシーおよびパンアメリカ評議会の両議長ヤヴキは、コーエンが追放された理由を明らかにせよと CPA に繰り返し迫り、それに返答する代わりに CPA がヤヴキとスコットに CEC 会議出席要請を繰り返したさなか、1921年2月15日、フレイナがニューヨークに戻ってきて、初めてエイジェンシーに任命された3名が一堂に会した。

この時およびその後の模様を片山は、次のようにリュトヘルスへ伝えている。我々はすでに始まった仕事をいくぶん再組織した。F.は1週間強滞在したあと、

カナダに行った（そこからメキシコへ行くことが前から手配されていた）。すぐに商品〔資金〕が最近 F. がそこからやって来た場所〔ベルリン〕に残されていることがわかり、同志 S. と私〔片山〕は反対だったが、F. はそこへ行った。彼はいくつかの商品を送ってきたが、彼の将来の動きについては現時点（1921年5月10日）で私にはわからない、と⁽³⁴⁾。

実は、この時の取り決めがあとあと問題になるのだが、約1年後モスクワで片山が ИККИ 小ビューローへ提出した最終的報告書によれば、こうあった⁽³⁵⁾。

我々は皆、3名全員、すなわちスコットとフレイナと私がメキシコに赴くことに賛成した。スコットはモスクワに向けて代表を乗船させるやすぐに発ち、私は直ちに発ち、フレイナはカナダ経由のはずだった。しかし、フレイナはドイツに行き、スコットは5月までぐずぐずした。

これから深刻になるパンアメリカン・エイジェンシーの内部対立に関して、当初フレイナがスコットへ不信を抱いていなかったことは、日付なしのトムソンのヤヴキ宛書簡でわかる（РГАСПИ, 495/18/66/265）。すなわち、私〔トムソン＝フレイナ〕はスコットと十分に話し合い、何らかの不快な感情があると思わない。スコットはあなた〔ヤヴキ〕が彼を信用していないと考えた。が、私は彼にあなたが私に書いたこと、すなわち騒ぎを起こしたのはハーパー（J. Harper = Julius Heiman [Hyman]）であると語った。

ハーパーの果たしていく役割にはトラブルがまわりつくのだが、彼の素性については不明なところが多い。早くも1918年4月30日付米国軍情報部(MID)報告によれば、リュトヘルス一家が日本に向けてアメリカを去ろうとする際、その後始末を金銭面で引き受けたようだ⁽³⁶⁾。また、ギトロウの回想によれば、ハイマン〔ハーパー〕は「りっぱで成功しているビジネスマンであり隠れた共産党員であり」、「〔宝石商として〕宝石を受け取りアメリカ・ドルに替える担当」をしたとあり⁽³⁷⁾、金銭にまつわる役割を担っていた。

1921年3月1日に重要な AC 会議が開かれ、議長のヤヴキ、スコット、そしてトムソンの代理とのことでハーパーが出席した。その時、3月から始まる6週間に関する予算が採択されたが⁽³⁸⁾、その日の会議での諸決定は、改めて3月

5日付で以下のように詳しく記録された⁽³⁹⁾。

1) ビューローは労働紙の刊行を直ちに始める。

2) UCPA の CEC へ、〔獄中同志〕支援のためにエイジェンシーが前払いした500ドルを直ちに返済することを要求する。(原注：UCPA に金を前払いしたことは、常軌を逸している。我々の公平さはどうなるのか。UCPA を財政援助することは、エイジェンシーにとって無策である。)

3) ヤヴキは彼の旅のために直ちに3,500ドル与えられる。(原注：ヤヴキに1,500ドルを提供する〔しか提供しない〕ことは常軌を逸する。)

4) アレン〔コーエン〕は彼の旅のために1,500ドル前払いされ、直ちに出發する。(原注：ヤヴキとアレンが彼らの旅に発たないようにとのスコットとハーパーの提案は、エイジェンシーの仕事の完全な誤解である。我々の仕事はパン・アメリカンであって、アメリカ合州国だけではない。)

5) 黒人ビューローに関して最初の決定は、週給35ドルと経費のための500ドルである。(原注：ここで再びスコットとハーパーは、エイジェンシーのビジネスを真に理解していない。本社〔HKKI〕は黒人問題を根本的とみなしている。)

8) 「トムソンの代理を務めるハーパー」という文句は3月1日の議事録から取って代えられる。(原注：ハーパーはエイジェンシーにおいてトムソンを代理する権限をもっていない。ハーパーはビューロー〔=AB〕の財務担当者としてエイジェンシーに入っている。)

9) Borrodine〔ボロジン〕に関する最初の問題が合併報告に再び書き込まれること、すなわち、これがあまりに遅いならば、トムソンが補足報告として本社に書くことが指示される。(原注：我々の合併提案の大いなる成功は、本社代表の [▽] [▽] に負っていることを理解すべき。我々は、Borrodine を全般的な原則に従ってではなく、彼がこの特別な仕事のためのある特別な資格をもっているゆえに欲していることを本社に印象づけなければならない。もしもスコットが Borrodine に対して何らかの反対をもっているならば、スコットに他の誰かを推薦させよ。)

（原文補足）スコットはすべての合併文書とディクソン（Dixon=E.R. Browder）の報告を一緒にもっていかなければならない。また詳細な財務諸表も。／新しい予算が作成されなければならない。トムソンがエイジェンシーに週2,500ドル与えることができる。／5月の大会後の仕事のための案が、我々によって本部に送付されるべきである。草案は準備されているか？

〔以下続く財務諸表については、後日の検討に委ねる。〕

1921年3月9日、ヤヴキ、スコット、ハーパーで会議がもたれ、アレンも数分間出席した⁽⁴⁰⁾。席上ハーパーが言うには、財源は激減した。経費削減がなされなければならない、ヤヴキとアレンは彼らの使命のために発つことができず、黒人ビューローは廃止されなければならない。〔その担当者である〕ジャンネット（Jeanette=Jeannette D. Pearl; フレイナの元内縁の妻）とサシャ（Sascha=Stokes）はこの仕事に不向きである、と。

議論が始まり、ヤヴキはアルゼンチン行中止に反対し、アレンは黒人ビューローのメンバーになることを拒絶した。結局、エイジェンシーは、サシャとジャンネットのための給料を廃止し、臨時出費の資金を500から200ドルにカットすることを決定した。ヤヴキとアレンの旅費がそれぞれ1,500と1,000に決まったが、スコット夫人が異議を唱えて、アレンの旅費は1,500に増えた。財源を総計して、約16,000しか残されていないことがわかった。スコットとハーパーの計算によれば、6週間の費用を引いて5,000ドル残されるであろう。

その日の諸決定は翌3月10日ヤヴキによってT--[Thompson]へ送られたようで、トムソンことフレイナはそれに同意し、署名した上でY-[Yavki]に送り返している（РГАСПИ, 495/18/65/61; cf. 495/18/65/66-67）。その際、一つの批判が付記された。あなた〔片山〕はエイジェンシーの中で十分に断定的ではない。議長として本社はあなたに拒否権を与えたのであり、必要ならばあなたはそれを使うべきだ。スコットと私は、同等のメンバーとしてよりは、あなたへの助手の性質をより帯びている、と。

そのフレイナの立場は貫かれていく。その一方で、スコットはその考えには早くから従わなくなる（後述）。

同3月10日、ヤヴキは同志たち（文面から ИККИ の、であろう）へ長文の報告をした⁽⁴¹⁾。それは、以下のように当時の片山の判断が明瞭に記されたものだった。

まず、CPA 指導者への批判がなされる。彼らは共産主義に関する非常によい理論家で第3インタナショナルのテーゼなどのよき解釈者という私の意見は誤解であった。彼らの理解と解釈はしばしば否定的、消極的であり、彼らの精神は硬直し、まったく柔軟性がない。統一問題をみよ。なるほど CPA の立場は正しく、徹底的に論理的である。がしかし、統一自体のまさにその緊急性をまったく無視している。極端な中央集権化のゆえに一般党员の中で思想と行動において自由な討論、発展、イニシャティヴもまったくない。私は現在の CPA 指導者たちの、（コミンテルンのテーゼにおいて強調されている）共産主義運動の合法と非合法という二つの側面を一緒に結びつける能力を非常に疑っている。CPA はより成長するために実践的合法的側面を強く必要としている。国際労働組合評議会の仕事が CPA にとって共産主義運動の二つの局面、すなわち合法と非合法を結びつける最初の教訓であった。私は CPA 指導者たちに二つの組合せの重要性を示すため非常に困難な経験をした。共同めいたものを確立することにさえ、私には長く5週間もかかった。

続く UCPA に関しては、私はほとんど言うべきものをもたない、UCPA は党が日和見主義へ向かうことを阻止し防禦するために強いリーダーシップを必要とする、と記すほど評価は厳しい。

1921年3月17日には、コベツキーの名でアメリカ両党へ以下の厳しい要求書が発されることになった⁽⁴²⁾。ИККИ は UCPA と CPA の諸報告を聞いて宣言する、二つの共産主義グループの統一のさらなる延期はコミンテルンに対する犯罪であると。両グループが〔コミンテルン〕第3回大会が招集される時までには万一統一できないならば、執行委員会はどちらも大会代表に認められないよう提案するだろう。さらに執行委員会は宣言する、アメリカ両党の執行委員会における現在の代表は、両グループの統一がもたらされるまで無効とみなされるであろうと。

そのような中、翌3月18日、パンアメリカン・エイジェンシーの上記の決定どおり、片山はメキシコへ向けてニューヨークを発つ（メキシコでのエイジェンシーの活動については次章で取り扱う）。

4）内部対立

1921年3月31日メキシコシティに到着したヤヴキは、翌4月1日の朝スコットへ電報を出し、そして手紙も書いた(РГАСПИ, 495/18/65/82-83; 495/18/65/84-85)。あなたは財務報告を誰の O.K. もなしに(すなわち、H[arper]. を通さず)私に送るべきだ。私はここから書面であなたに O.K. を送るつもりだ。H. は AC の出納方に任命されたのでは決してなく、AB に対してだけだ、と。

実は、片山のメキシコ到着直後に ИККИ から第二番目の重要な指令が届き、それを受け取ったスコットが片山と緊密な連絡をとることなしに独自の行動をとり、それがエイジェンシー内に亀裂を生じさせることになる。まず、UCPA 系の『コミュニスト』(*The Communist*) 16号(1921年4月)に掲載されたスコットの署名のある CPA および UCPA 宛1921年4月4日付通知を(同号未見のため司法省捜査局による再録報告によって)みていく⁽⁴³⁾。

3月28日に我々は、コミンテルン第3回大会が6月1日にモスクワで開かれるであろうことと赤色労働組合の大会が7月1日まで延期されたとの通知を受け取った。両党 CEC へ代表準備のために即刻知らせた。続いて、4月2日に我々は ИККИ から第二番目の通信を受け取った。コミンテルンの AA [(パン) アメリカン・エイジェンシー] は両共産党を統一するための全権をもつ。この統一は6月1日までに達成されなければならない。さもなければ既存の党にかかわらずすべての運動が再組織されるだろう。この決定は最終的であり、ИККИ はもしもアメリカからの代表が統一された党から来ないならば彼らを認めないだろう。

AA は共産主義両党統一のための以下の条件について満場一致で合意に達した。

- 1) 統一大会はこの声明受理後6週間以内に開催されるべきこと。新しい

選挙で各党30名の代表から構成される。各党から1名とAAから1名、計3名から成る委員会が、大会を呼びかけ、組織すべき。大会の議長はИККИによって指名され、かつИККИを代表するだろう。

2) 大会は〔新しい〕統一党のCECの8名を選ぶ(各代表団から4名ずつ。ただし、各代表団で別々にではなく総会で選ぶ)。第9番目(CECの議長となる)はИККИで指名される。

4) 戦術の論争的な問題に関してコミンテルンAAは表明する。

a) ……/b) ……/c) 党は次の最高位の、大会やCECに至るまでを選出する最底辺の単位を基礎に徹底的に中央集権化されなければならない。

6) 外国語別連盟はアメリカ・レフトウィングの歴史と発展において重要な役割を果たしてきたが、しかし共産党における連盟形態は実際に自治的であるので許されない。他方、統一共産党の連盟を完全に廃止する今の政策は、時期尚早である。この問題についてAAは表明する。

a) 統一党は、外国語別連盟の存在をそれらの言語での党煽動を続けるために認めなければならない。

b) 党大会直後に、連盟は自分たちの大会をCECの承認でもって開いてもよい、そこで各連盟からの3名のビューローと外国語別機関紙の編者たちを選出すべきである。

7) AAはこれらの指示を実行するための全権をもつ。大会で起こるかもしれないいかなる行き詰まりもAAは打破し、統一党のCECに関する何らかの論争を決着させるだろう。

9) これらの指示を拒む党もしくはセクションは、自動的にコミンテルンから追放される。

追記 AAのフレイナとヤヴキ、他の2名は一時的に不在であるが、しかし私〔スコット〕は急いで、3月5日に統一に関してエイジェンシーによってなされ、全メンバーによって署名された決定を、コミンテルンから届いたばかりの通知と一緒に、あなたがたに伝えている。

この通知と既述の3月5日の記録との異同は確かめにくいけれども、追記に記されたことは怪しい。なぜならば、片山が「そのスタート時に我々の草案を両党に彼〔スコット〕が提示することによって我々は誤りを犯した（彼のCPAへのあまりの強要によって行き詰まりを引き起こした）」（注46）とのちに述べるように、3月5日の記録は「草案」であった。

このスコットによる提案に対する両党の対応は分かれた。UCPAは事務局長ホルト（P. Holt）によって提案に前向きであることが示された⁽⁴⁴⁾。一方、CPAのCECは直ちに、代表の〔党員数に応じた〕比例選出から均等選出への変更などを抗議する声明をコミンテルンに送った（РГАСПИ, 515/1/45/25； cf. 515/1/46/29-29a）。

その抗議の第1項目、すなわち「AAの最後通牒はECCIへ承認を求めて提出するため元々3月5日に作成された。全権が通知された時、K.とF.は国外におり、4月5日にスコットが案の強化に向かった。スコットによって我々が知らされたのは、案へのいかなる修正もなく、無条件で同意しなければならない」をみると、スコット独自の考えがそこに示されたとみられる。改めて発されたCPAのCECのパンアメリカン・エイジェンシー宛1921年4月16日文書にあるように、スコットによって「AAは権限を踏み越えてしまった」のである（РГАСПИ, 515/1/45/24）。

この時片山は4月4日のスコットの行動を知るよしもなかった。けれども、片山はスコットだけではなく、パンアメリカン・エイジェンシーの黒人問題担当のジャネット・パール（J.だけでなく時にキスコ〔Kisco〕やジェニー・ディーン〔Jenny Dean〕の偽名を使用）とローズ・ストークス（Sa ないし Sas(c) ha の偽名を使用）とも通信を維持していく。それは、後述するように、遠く離れ、その上スコットからの通信が不十分でかつ疑念を抱きかねないものであった中、片山にとってセカンド・オピニオンとして、また意思反映の手段として不可欠なものとなっていく。

1921年4月19日、スコットはメキシコシティのアメリカン・エイジェンシー議長のもとへ次のような重要な書簡を送った⁽⁴⁵⁾。

共産主義両党の統一の問題は、私が報告できるもっとも落胆させる事柄である。一つのことが私には確かなように思える、すなわち、もしも AA が揺れ動く政策を追求しようとするならば、そのような政策は AA を創った人々によるその廃止以外の結果をもたらさないだろう。ある勢力が AA の信用を傷つけるために始終働いているというのが、私の固い確信である〔全文大文字〕。両党の CEC が AA と闘っており、我々が立場も行動ももっていないことを証明するために立ち現われている。

私の立場はあなた〔片山〕に対してははっきりしている。もしも我々が承認を求めてコミンテルンへ何かを送り、彼らの許可を得るならば、我々はそれを論理的な結論にまで進めるために弱音をみせるべきではない。

「我々〔CPA〕はあなたがたメンバーの一人、チャールズ・E・スコットの名で書かれた4月4日の通知を受け取った」との問題に対して、私は以下のことにほとんど注意を払わなかった。1) あなたが理解しているように、私の権威は疑問視された。2) エイジェンシーが公式の会議をもつことを主張している〔ここに片山のニューヨーク行が検討されていく〕。3) 決定などを受け取る権限を〔CPA は〕与えられていない。

私は UCPA 代表のダフィー (Duffy=A. Wagenknecht) と CPA 代表のボールドウィン (B. Baldwin=O. Tyverovsky) と会った。ボールドウィンは (AA によって提起された統一と大会の諸条件が含まれているとの理由で) 統一大会のための呼びかけに署名を拒んだ。私はエイジェンシーの案は両党に対して拘束力をもつものであり、もし変更がなされるならばそれはコミンテルンから来なければならないと伝えた。けれども、私は結論づけざるをえなかった、CPA 執行委員会に関する限り、彼らは友好的統一を欲してはいないし、その達成を妨げるために可能なあらゆることをしつつあると。

エイジェンシーの権限が疑われ始めたことは深刻であった。

本書簡は1921年4月29日朝に届き、その日のうちヤヴキはジョンソン〔スコット〕に次のように書き送った (РГАСПИ, 495/18/65/164-165)。

あなたはある勢力がエイジェンシーに反対して活動していて、それらの勢

力によって [home] office はエイジェンシーを廃止するかもしれない、と言及した。彼らを妨げるために我々は何をすべきか？ 我々の任務を最大限果たすこと以外の方法はない。もしも我々3名が一緒に調和して、またまじめに働くならば、我々はモスクワの我々の創設者たちの希望に添うことができるだろう。我々の仕事は〔合〕州国に決して限定されてはいない。カナダ、メキシコ、中米、そして他のラテン・アメリカは、近い将来我々の仕事のまさにその領域である。

ここにエイジェンシーの廃止が初めて話題に上っている。しかし、片山の意欲は充ちていた。彼は1921年4月25日付で（発送は4月27日以降）第3インターナショナルの同志たちへ以下のように報告した⁽⁴⁶⁾。

あなたがたがエイジェンシーのアメリカ支部へメッセージを送った時、私は去っており、スコットがその問題を受けもったが、しかしまさにそのスタート時に我々の草案を両党に彼が提示することによって我々は誤りを犯した（彼のCPAへのあまりの強要によって行き詰まりを引き起こした）。

私は初めてスコットからあなたがたの命令（エイジェンシーは二つの会社の合併の全権をもつ；6月1日が期限；本社への代表は合併した会社だけが受け付けられる）を得た。この電報は4月24日に私に送られた。本日（4月26日）、スコットはスコットかフレイナが統一に関する我々の草案へのあなたがたの承認を求めたことへの回答として以下の電報を私に送ってきた。取締役会〔ИККИ〕に権威づけられて言うが、エイジェンシーには5つの条件を押しつける権限はない、均等〔代表選出〕を基礎に、……。〔署名〕ジョゼフ・アンドルーズとマーシャル（Marshall=Max Bedacht）商会。

もしもスコットが第一の命令を私に送り、彼が両党へ草案を提示する前に私と相談したならば、我々は大会を招集できただろうに。あなたがたの第二の命令で、両党が是非とも統一するであろうと我々は確信する。

追伸 4月27日に私はスコットから電報（「共同招集が同意され関係者すべてによって署名された〔／〕あなたの出席は求められない」）を受け取った。きっと彼らは来たる大会で大きな困難なしに統一するだろう。

このあたりの経過説明は、片山の R[utgers].宛1921年4月28日付書簡でも以下のように少し整理して報じられた⁽⁴⁷⁾。

私と相談することなしにスコットは例の草案を両党に最終的なものとして提示した。しかし、CPA はそれを受け入れず本社へ訴え、満足いく返事を得た。そこでスコットと F.は本社に草案の承認を求めた。一方、条件を受け入れていた UCPA は、エイジェンシーの優柔不断をせめ、本社に訴えると我々を脅した。それはスコットを非常に困難にさせ、彼は私に何をすべきか問うてきた。このような段階で、M[ain]. O[ffice]. から第二の権限委任が来て、それは明らかに第一のそれをくつがえした。〔この指示には〕アンドルーズの手になる党派的偏見の形跡が現われている。にもかかわらず、私はこれによって来たる大会の責任はまったく両党の肩にふりかかり、A[gency]. の責任が大いに軽減されることはうれしい。いま第二の権限委任の電報により両党は呼びかけに署名し、それでスコットはもはや私の出席は求められないと私に打電してきた。

（実は「うれしい」どころの話ではなく、HKKI からの指令系統が混線しはじめていたのだが、それはさておくとして）1921年5月15-28日に共産党と統一共産党とが、双方30名ずつ集まって統一会議をニューヨーク州ウッドストックで開いた。統一が実現したことは、早速当事者たちによって公表されることになる⁽⁴⁸⁾。

MID の報告書によれば、スコット（統一共産党での党ネームはスチュアート〔Charles E. Stewart〕）とスウィフト（Swift）として知られた男（実際はロシア医療救済協会講師ハルトマン博士〔Dr. J.W. Hartman〕）もまた出席し、後者は公平な議長として行動した⁽⁴⁹⁾。ということは、ハーパー＝ハイマンとハルトマンは同一人物ということか、あるいは、同報告が誤認したか。舞台裏での活動および「博士」という共通項から前者の可能性が高いと推定される⁽⁵⁰⁾。

一時は片山ですらフレイナが3カ月間不在であることへの不安が募ったのだが（РГАСПИ, 495/18/66/21-22）、フレイナがようやくメキシコに来た直後の1921年7月13日付ブレイ（A. Bray=Scott）宛書簡で片山は、今度はスコット

への要求を次のように強めた(РГАСПИ, 495/18/66/35)。数日前あなたに直ちにここに来よう求める手紙を書いた。Lilbit〔フレイナ；次章参照〕はここにいて、我々は我々の仕事を開始したが、しかし我々はあなたが非常に必要だ。もしもアレンが戻っているなら、一緒に来てもらいたい、と。

ブレイことスコットは1921年7月22日にケリー（Kelley=Katayama; ブレイが片山に使用を求めた偽名に由来）にまとまった返答をした。未詳部分もあるが、以下抜粋しておく⁽⁵¹⁾。

1) 極東商会（Far East Company=ИККИ 極東書記局）を取り扱っているあなたの書簡、報告、説明を私は受け取り、本社へ転送した。それゆえ、あなたに返送できない。

3) 私はハーディ（G.Hardy）〔波線部は暗号数字を解読したもの；以下同様〕と長い会談をもってきている。彼はいま本社によって任命された赤色労働組合インタナショナルのメンバーでもある。彼のほかに本社は第5番目のメンバーとしてアルゼンチンからある男を任命した、彼の名前を私はまだ知らない。G.H.はIWW内で我々のビジネスの視点を見つけ、発展させるために5,000ドルを得た。

5) つい最近ここに以下の信任状をもった一エージェントが到着した。「本状は同志Rade-CrthurhtalyがECCIによって党活動のためにコミンテルン・アメリカン・エイジェンシーへ滞りなく送られていることを証明する——ECCI書記M. コベツキー」。彼は以下の報告をまた取締役会にした。「合法的な日刊紙が直ちに開始されなければならないし、いくぶん穏やかな表現〔で〕——英国の『デイリー・ヘラルド』のように」。「合法的な活動が直ちに開始されなければならない」。「レーニンは合法的な党を開始することさえ賛成である、それはもちろん我々の既存の会社によって統轄されなければならない」。取締役会は日刊紙を開始する用意はあるが、しかし直ちにはできない、なぜならば本部事務員を維持するための財政すらない。

6) 私は、帰途の使者がすべての問題に関するすべての決定および指令をもって〔帰るように〕と知らされた。それゆえ私はジョゼフ〔・アンドルー

ズ〕 商会に即刻会うことはできない。

8) すべての通信は以下に宛ててもらいたい。Mr. J. Moness 426-Broom
Street, New-York City.

9) 私は私の3月の財務諸表を破壊することを強いられた。即刻上記の住所にコピーを送ってもらいたい。

10) あなたは本社からあらゆる種類の材料を受け取っているか？ もしそうでないなら、知らせてもらいたい。

11) アレン商会について私が知っているのは、彼女はロンドンにいてアレン氏はなお南〔アメリカ〕にいる。彼の書簡を同封する。それが私がこれまで受け取ったすべてである。アレン夫人からは1行たりともまだ受け取っていない。

1921年8月16日、ヤヴキとカーター (Carter=Fraina) のエイジェンシーは、統一されたCPAのCECへ重要な通知を出した (ПГАЦИИ, 495/18/66/75-76)。

あなたがたとエイジェンシーとの間の現在の諸関係が非常に不満であると我々はみる。ヨリ緊密な関係を築くために我々はあなたがたに書いている。エイジェンシーの仕事は圧倒的にラテンアメリカにおいてであるが、アメリカの党に最大限の関心がある。合州国の党が率先して、すべてのアメリカにおける運動の統一、これが不可欠である。この目的のために、我々は以下を提案する。

1) CECの代表として一アメリカ人同志を我々のエイジェンシーに派遣するように。彼はあなたがたの信用を得るが、同時にエイジェンシーの書記として行動できる執行能力をもつべきだ (ドビン [C. Dobin=Ch. Dirba] とかデイモンのタイプの同志を)。

2) 我々はアメリカの党の発展と積極的に関わることができるために定期的な報告、情報等をもつべきだ。合法および非合法のすべての党刊行物も。

3) レイバー・ビューロー [=AB] と党の間に存在するであろう諸関係についてあなたがたの考えは何か？

4) 黒人業務のために我々の統制下で我々によって個別のビューローが創られるべきか、あるいはあなたがたの CEC によってこのことはなされるべきか？ もし後者なら、我々に理由とプランを送ってもらいたい。

6) 党の諸機関紙上の編集作業においてカーターは役目を果しうるか？

8) 我々はアメリカの党をラテンアメリカ中に宣伝したい。最良の手段は何か？ 一つの方法は、党事情の広範な面に関する論文をメキシコや南米の共産主義出版物での公刊のために隔週ごとに送ることである。

9) 我々は Fra[ina]. による二つの論文を送っている。日和見主義に関する一つは、我々の意見では即刻パンフレット形態で印刷されるべきである。党にそのための資金がなければ、スコットがその費用を支払うことの権限を与えられている。我々はじきにあなたがたに以下のパンフレットを送るだろう。①ヤヴキ／カーター著『共産主義の原則』（ヒルキット著『マルクスからレーニンへ』への返答）；②カーター著『アメリカ革命』（南北アメリカ労働階級への〔コミンテルン〕執行委員会宣言⁽⁵²⁾の詳述）；③カーター著『有色革命』（帝国主義と世界社会革命に関して有色人種の覚醒の研究）。

どうか迅速に答えて下さい、そして明確で緊密な関係を築きましょう。

1921年8月21日、プレイからヤヴキ商会 (Y & CO) へ、我々の交易代表である Cosgroer が本社から戻り、以下のような報告をしたことが伝えられた⁽⁵³⁾。

1) Red Trade Union-Internの執行部に Andretchine [G. Andreychine] と Dixon が American Trade Union 代表として選ばれている。Dix[on] はここへの途次であり、来週上陸するだろう。

2) Red-T.-Union-Internのパンアメリカ評議会が新しく選ばれた執行部によって解散されてしまっている。またイングランドにおける Trade Union Bureau は解散されている。まさにこの決定は我々の信任状が取り消されていることを示す。それゆえ声明等に関するあなたがたの提案のすべては、ふさわしい当局に委託されるだろう。しかしながら、私は Dix[on]. や他が到着するまで、いかなる行動をもとるつもりはない。

3) マーシャルは以下の指令を強制的として報じた：

当地の党は合法的-大衆的-党を即刻準備しはじめなければならない。その党は underground-party によって十分に統制されなければならない。

当地の会社は日刊紙を直ちに開始しなければならない。

ここに初めてパンアメリカ評議会の解散が明記されている。果たしてこのような直接的指示を本社が与えたであろうか。それを否定する判断を下す書簡がジョゼフ（Joseph=Ch. Dirba）からモスクワのボールドウィン〔O. ティヴェロフスキー〕へ1921年9月3日に出されている（РГАСПИ, 515/1/39/104）。そのジョゼフこと D[irba]. は、三日後の9月6日にヤヴキ商会へ（CPA 機関紙へ提出したものの公表を拒まれた）党事務局長辞任声明の写しを送った⁽⁵⁴⁾。

万一指示どおりだとするならば、パンアメリカ評議会議長片山は蚊帳の外だったことになる（そのような扱いは後述するパンアメリカン・エイジェンシーの解散指令の場合で顕現する）。

1921年9月8日に CPA 執行委員会（事務局長カー）は、ヤヴキとカーターによる上記8月16日付通知への以下の返答をスコット宛に行い、スコットは同日にそれをおそらくヤヴキへ転送している（РГАСПИ, 495/18/66/109-110）。

1）ヤヴキとカーターはエイジェンシーと党との乏しい関係について不平を言う。これは我々にとって驚きである。なぜならば、我々は合州国代表であるスコットを通じてエイジェンシーと直接かつ絶え間なく接触しているのだから。

2）我々はあなたがたによる党の一代表〔派遣〕要求を考慮することを拒まなければならないことは極めて遺憾だ。なぜならば、①我々は正式にプロフィンテルン執行委員会によって、あなたがたのビューローがもはや労働組合諸活動を担うことはできないと通知されている。この目的のために同執行委員会は、その代表として行動する一同志を任命している；②あなたがたの政治活動に関する限り、それらの性格は我々の側で行動を保証するにはあまりに不明確である。

4）レイバー・ビューローと党の関係について我々の考えをあなたがたが知りたいことに関して、我々はあなたがたに、同ビューローはプロフィンテ

ルン執行委員会の命令によって廃止されているとご通知申し上げる。

5) 黒人業務に関しては、党は積極的に活動中の一黒人部門をもっていることをあなたがたに通知する。しかしながら、資金不足のため、党はこの困難を克服することにおいてあなたがたの助けを歓迎するだろう。

6) あなたがたのアメリカ共産主義文献への切望は、大いに歓迎する。が、〔ここでも〕資金不足があり、〔上記同様〕あなたがたの助け〔が求められている〕。

9) ラテンアメリカ諸国で党を押し上げようとのあなたがたの望みは、大いに元気づかせる。我々は定期的に全刊行物を送っている。

11) 最後に、CPA はメキシコ、中南米の共産党と運動の詳細な研究をあなたがたに求めたい。我々はとくにラテンアメリカ諸国の共産党の中でのあなたがたの活動の完全な報告を獲得することを切望している。

これへの返答は、1921年9月27日にヤヴキによってにべもなくなされた。我々は残念ながらあなたがた〔CPA の CEC〕の要求に財政的に応ずることができない、と（РГАСИИ, 495/108/11/35； 495/18/66/128）。

エイジェンシーの解散の事態が切迫しつつある。第6章で改めてその問題を中心にエイジェンシーの末期をみていく。

5 メキシコシティにおけるパンアメリカン・エイジェンシー

片山はメキシコシティ到着の翌日、1921年4月1日から連日タナー(D. Tanner)と会って、当地での活動の最初の段取りをつけた。4月12日まで続いた両者の会話は、議事録が残されるほど重要なものであった⁽⁵⁵⁾。なぜ片山の最初の共同者がタナーこと本名フィリップスであったか、その経緯を最初に記しておく。

フィリップスは、1918年5月に徴兵を忌避して妻(Eleanor)とともに亡命したアメリカ人ジャーナリストであり、スペイン語を操り、時代順に主として4つの偽名(Frank Seaman, Jesús Ramírez, Manuel Gómez, Charles Shipman)を使い分けた(本稿での表記は原則としてテキストのままとする)。フィリップス

には二つの回想があり、単行本の方が詳細で近年よく利用されているが、(ロイの回想同様) 日付の誤りや事実誤認が目立つ⁽⁵⁶⁾。

1919年12月初め、ヘスス・ラミレス（フィリップス）は帰国するボロジンの通訳を兼ねキューバを経てスペインに向かい、ボロジン出発後もしばらく当地での既述の活動に関与したあと、ロシアへ向かい、コミンテルン第2回大会にロイ夫人の上記信任状を譲り受けて出席する⁽⁵⁷⁾。フィリップスと同じくCPAを代表して同第2回大会に出席したフレイナは、パンアメリカン・エイジェンシーを創設するため（および正式にはまだ創設されていないプロフィンテルンのビューローをメキシコに設立するため）メキシコに赴くことになり、途中ベルリンまでその手配を整えるためボロジンが同行した（モスクワを1920年10月15日ないし同月後半に出発）。両者ともモスクワで結婚し、フィリップスは法的には重婚だが、新妻（Natalia）を同伴し、フレイナの妻（Esther）も後からベルリンにやって来た。当地でドイツ婦人が経営する下宿に隠れ住んでいた間、ボロジンとフレイナは名前を知らされなかった彼女からそれぞれ“Der große Herr”と“The Little Bit”と呼ばれていたが、後者がフレイナの風変わりな偽名リトルビットの由来である。フレイナは90日間ベルリンに滞在したあと、妻を残してロンドン、リヴァプール、モントリオール経由でニューヨークへ向かう。フィリップスは新妻を伴ってアントワープ、ニューヨーク経由で一足早くメキシコへ向かい、1920年12月末にメキシコに戻る⁽⁵⁸⁾。

片山はコミンテルンのパンアメリカン・エイジェンシー議長だけではなく、赤色労働組合インタナショナル（厳密には、まだ国際労働組合評議会だが、関係文書に多いその略称RLUIを以下主に使用する）のパンアメリカ評議会議長としての任務も帯びていたが、党よりも組合関係の方の活動が先行した。すなわち、4月1日の最初の会談でヤヴキはタナーにRLUIの5月1日大会へ派遣する最良の人は誰かを問うた。ディアス・ラミレス（〔メキシコ・プロレタリアート〕共産主義連盟の〔国際〕書記でロイ系メキシコ共産党メンバー）が提案され、同晩、彼とヤヴキは会い、労働者総連合（Confederación General de Trabajadores〔CGT〕；アナルコ-サンディカリスト系で、後述のCROMに対

抗して1921年2月創設）執行委員会から信任状を得られることを条件に彼を派遣することが決まった。その CGT からの信任状は4月5日付で得られ（РГАСПИ, 495/18/65/87）、また同日付でメキシコ共産党からの信任状も作成されることになる（РГАСПИ, 534/1/4/137）。

4月7日、ヤヅキはスコットに宛てた以下の信任状をしたためた（РГАСПИ, 495/18/65/92）。「持参人、同志マヌエル・D・ラミレスは、CGT の正式の RLUI 代表であり、メキシコ共産党の真のメンバーである。彼に与えられるすべての親切は、本筆者および当地の同志によって十分に感謝されるであろう」。

翌4月8日朝、ディアス・ラミレスは合州国經由でモスクワへ向けて発った。ニューヨークへ着いたディアス・ラミレスは、当地でさらにスコットから4月19および20日付の露語および英語による身分保証を得た（РГАСПИ, 534/1/4/134； 534/1/4/135）。英文の方だけ紹介すると、「RLUI 臨時評議会およびコミンテルン・アメリカン・エイジェンシーのアメリカ代表」との肩書で以下のように書かれていた。「本状は同志マネリョ・D・ラミレスが国際労働組合評議会の第1回大会に対して正しく選ばれ権威づけられたメキシコの CGT を代表する代表であり、またメキシコ共産党を代表するコミンテルン第3回大会への代表であることを証明する。……」

4月21日、ディアス・ラミレスはニューヨークを出帆し、5月15日に入露を果たし、コミンテルン第3回大会およびプロフィンテルン創立大会に出席する⁽⁵⁹⁾。

一方、現地の労働組合ビューローの創設に関しては、すでに4月2日付でヤヅキは「国際労働組合評議会パンアメリカ評議会議長（ニューヨーク）」の肩書でルービョ（J. Rubio; CGT 執行委員会、メキシコ共産党メンバー）、ペイリ（M. Paley=H.M. Levine; IWW のメキシコ執行部機関誌『産業労働者』編集者）、そしてヴァラデス（J.C. Valadés; 共産主義青年連盟員）に次のように書いた（РГАСПИ, 495/18/65/86）。本書簡は、あなたがたにあなたがた自身を（CROM の左翼から〔あなたがたによって選出されるべき〕1名を加えて）RLUI 臨時メキシカン・ビューローとして構成する権限を与える一時的な信任状として考え

られるべきである、と。

4月4日に同ビューローが週報を公刊すべきことが決定され、翌4月5日、ヤヴキの提案で、それは『労働者』と呼ばれることが決定された。タナーはヴァラデスを編集者として提案した。ヴァラデスと4月12日にヤヴキは会い、本誌を4月23日土曜日に創刊することを決定した⁽⁶⁰⁾。

4月21日、同ビューローは、メキシコ労働者地域連合（Confederación Regional Obrera Mexicana [CROM]；1918年5月に正式創設で、執行部はAFL系列下）からレイハ・パス（F. Leija Paz）が加わって、以下のように正式に任命された（РГАСПИ, 495/18/65/133）。メキシコでは国際労働組合評議会パンアメリカ評議会議長として私〔ヤヴキ〕は正式にあなたがた（ヴァラデス、ルービョ、ペイリ、レイハ・パス）をインタナショナルの臨時メキシカン・ビューロー（Provisional Mexican Bureau）に任命する、と。

ヤヴキがメキシコ共産主義両党の統一問題を取り上げたのは、4月9日の会談からである。4月11日にヤヴキとタナーは、（両共産党内外の）全共産主義者へ向けて共産党再組織のための大会を招集する声明書が（両党合同して）発されるべきことに合意した。同日付でヤヴキは、両共産党員宛に以下の文書を発した（РГАСПИ, 495/18/65/98）。

ИККИによってメキシコ共産主義運動の現状を調査することを指名され、共産主義の統一と活動の基礎を据えることの権限を与えられて、私はその問題を研究し、以下の判断を下した。

1）革命的共産主義運動のために、唯一コンパクトな共産党がメキシコに設立されることが絶対に必要である。

2）この仕事を実行するために、両党の CEC による署名のある（メキシコにおける唯一の共産党の組織化のための大会にすべての真の共産主義者が参加することを呼びかける）宣言が遅くとも4月30日までに発されるべきである。

3）コミンテルン第2回大会の決定に従って、新党は“Partido Comunista de Mexico”として知られるだろう。

5) 新党の CEC は暫定的に以下のように形成されるだろう。現存の両共産党によって選出された各 1 名のメンバーと、組織大会によって選出された 3 名の追加メンバー。

6) 新党の臨時 CEC の仕事と同様、組織大会の準備はコミンテルン・パン・アメリカン・エイジェンシーのメキシコ代表と一致して実行されるだろう。

そのエイジェンシーのメキシコ代表には、翌 4 月 12 日にヤヴキによってターナーが任命され、信任状（フランク・シーマン宛 4 月 11 日付）（РГАСПИ, 495/18/65/99）が与えられた。

1921 年 4 月 23 日、片山らは両メキシコ共産党の代表と会議をもち、彼らは最終的に統一に同意し、片山が提案したように、共同で署名して大会を招集することに同意した⁽⁶¹⁾。

その大会招集はひと月遅れ、しかも軌道修正をして模索されることになる。すなわち、1921 年 5 月 25 日、パンアメリカン・エイジェンシー議長ヤヴキは共産主義青年連盟のメンバーたちへ宛て以下の声明を発した（РГАСПИ, 495/108/10/1-3）。

不幸にも両メキシコ共産党の指導者はともに外国人であり、いま国外にあり、明らかに両党は名前だけの存在にすぎない。けれども、我々はあなたがたの国に真に強力な共産党を欲する。あなたがたが強力な組織へと成長しているといま私は聞いているので、あなたがたがそのようなメキシコ共産党を組織するための大会を招集することは可能でないだろうか。あなたがたのその組織化の支援となるであろう以下の 3 つの提案を私はしたい。

1) メキシコ共産主義青年連盟は、大会を招集し組織するための権限が与えられるであろう招集委員会を指名することにしましょう。

2) 招集委員会はコミンテルンの諸要求に一致した党の規約を作成し、討議されるべき議題を準備すべきである。

3) 招集委員会はまた、コミンテルンのいわゆる「21 カ条」などの文書を大会代表たちに準備・供給すべきである。

本文書もそうだが、片山がエイジェンシー議長の肩書でメキシコシティで発する声明には、原則ニューヨークが付される。それは単なる権威づけにとどまらず、「パン-アメリカ」に広くおよぶ権限を付与したいがためではないだろうか。本文書の最後にはそれと関わる最終目標が次のように掲げられていた。近い将来、ラテンアメリカの共産主義諸党は一連盟へと統一し、合州国およびカナダとともにコミンテルンの最強の支部の一つである汎アメリカ共産主義連盟（Pan American Communist Federation）を形成すべきである、と。

このメキシコ共産主義青年連盟を通じてのメキシコ共産党創設の試みは、後述するように、少し時間をおいてエイジェンシーの最後の重要任務となる。

1921年5月16日のヘスス・ラミレスの逮捕をきっかけに、片山は地下潜行を余儀なくされた。5月26日に同志たち（文面から ИККИ の、であろう）へ宛てたヤヴキの報告によってその経過をみている⁽⁶²⁾。

今月16日に突然同志ヘスス・ラミレスがいかなる理由もなしに逮捕された。私は私の部屋から離れ、身を隠した。これまでのところ私は、この報告書をあなたに書いているように安全だ。私の特別な命令と忠告にもかかわらず、ラミレス夫人の賢明でない行動によってラミレスが警察当局に逮捕されたし、もう一人の同志もトラブルに巻き込まれて逮捕された。それ以来、プロパガンディストとして国中に派遣した同志たちが捕えられ、いく人かはすでに追放されていることをおそれる。いま皆で12か14名が逮捕されている。すべての外国人の赤い煽動家は憲法第33条によって裁判なしに即刻国外に追放されるであろうことが政府の方針である、と政府が宣言した。

そのようなことで我々の仕事はしばらく遅れたが、しかし我々は週報をきちんと刊行してきている。第6号が次の土曜日〔5月28日〕に出るであろうし、我々はできる限り続けるつもりだ。合州国の私の同僚が補強要員を送ると約束したが、そうしていない。それで私が現在の状況下で多くをなすことは不可能である。けれども私は揺るがず、アメリカ帝国主義（メキシコ政府がその傀儡である）との闘争に最善を尽くすつもりだ。私はあなたがたに迅速な補強と支援を求める！

続けて6月5日付（発送は6月8日以降）同志たち宛報告には、こうある⁽⁶³⁾。

臨時メキシカン・ビューローのメンバーの逮捕・追放後、ビューローの主たる活動を機関誌刊行に限定し、それは定期的に出、配布先は広がりつつある。共産主義運動への最近の弾圧は、これまでのところ外国人に限定されており、ビューローの仕事はメキシコ人メンバーだけでうまく行われている。メキシコ共産主義青年はビューローの一員でもあるヴァラデスのみごとに指揮し、そのメンバーは私が来た当初メキシコシティで40ないし50名だったが、5月初めには180名、そしていま800名へと急激に増えている。彼らは月刊機関誌『世界の青年』〔*Juventud Mundial*〕をもっている。共産主義青年の最近の一会議で、メキシコ共産党の組織化を目的とした大会の招集のための賛成投票がなされた。この計画によって、かつての共産主義両党の一般党員は新党へ徐々に参加するだろう。

追伸 合州国の同僚が私に3名の補強要員を送ってくれて、大いにうれしい。彼らは2週間当地にいて、多くの心配事と困難のあとついに先週水曜日（6月8日）以来私は彼らを使うことができた⁽⁶⁴⁾。

地下潜行中のエイジェンシー議長は、1921年6月から8月にかけて各方面へメッセージを送り続けた。すなわち、6月23日にはオリサバでのCROM大会へ⁽⁶⁵⁾、7月18日にはメキシコIWW（РГАСПИ, 495/18/66/39）およびメキシコ共産主義青年連盟大会へ（下記）、7月27日にはタンピコ油田労働者⁽⁶⁶⁾およびCGTへ⁽⁶⁷⁾、そして8月1日にはユカタンのイサマルでのメキシコ南東社会党大会へ⁽⁶⁸⁾。ここでは、メキシコ共産主義青年連盟大会に次のように「友好の革命的挨拶」を送ったことだけを紹介しておく（РГАСПИ, 495/18/66/41-42；495/108/10/12-13）。

あなたがた連盟の最初の任務は、もちろんメキシコの革命的青年を組織することである。しかし、メキシコ共産党の形成に助力することも等しくあなたがたの責務である。我々はあなたがたに、本大会が共産党を組織するための仕事を開始するために三人委員会を選出することを提案する。

同時期、モスクワでは共産主義青年インタナショナル（キム）第2回大会が

開催され、メキシコを代表してヴォーク（E. Woog）が出席していた。ヴォークはスイス生まれで、スイス社会主義青年同盟に参加し、スイス社会民主党員でもあったが、1919年秋に家族の移住に伴いメキシコにやって来て、メキシコ共産主義青年連盟の1920年8月22日創設に加わった。さらに彼は、スイス時代からのつながりでキムのミュンツェンベルクらと通信し、キムより中・南米の青年組織との接触を委任され、またキムの正式の代理人としてラテンアメリカン・ビューローに入っていた⁽⁶⁹⁾。

1921年8月24日、片山はИККИへ長い報告を送った⁽⁷⁰⁾。それは地下潜行後の片山たちの活動を包括的によくまとめて報告しているが、すでに摘記要約しているので割愛する。

続けて1921年9月5日、片山はフレイナとともにИККИ小ビューロー宛にエイジェンシーの報告書を送った⁽⁷¹⁾。以前の諸報告を補足したメキシコにおける共産党に関するその特別報告を、以下みってみる。

同志 K[atayama] が4月に二つの「共産党」を統一しようとしたが、その時、指導者たちの追放で二つの党は完全に消えていた。二つの「共産党」を統合する努力はまったくむだだった。二つの「共産党」が単なる個人的な事柄であったという事実が、多くに共産党に反対する偏見をもたせた。その分野を見渡す時我々は、明確な組織とメンバーをもった唯一の共産主義グループはメキシコ共産主義青年連盟であるとわかった。同連盟は会費を払う（二つの「共産党」にはそのようなものはなかった）500名以上のメンバーをもっている。月刊の機関誌『世界の青年』を2千部発行している（我々は同誌の改善と拡大のために財政的に支援している）。しかしながら、連盟はまだ戦術的にはまったく明確でない、8月初めの同大会で採択されたテーゼに示されているように（添付付録 No.1〔РГАСПИ, 495/108/10/19〕）。青年同志たちと相談後、我々は共産主義青年連盟を共産党組織化のための出発点とすることを決定した。我々はスペインでの誤りを繰り返していない、そこでは青年連盟は自動的に自らを共産党へ変えた。我々は8月初めの共産主義青年大会へ宣言を発して、大会が共産党のための組織委員会を指名するよう求めた。

我々は大会をおそらく12月まで招集するつもりはない。

1921年9月16日に片山は RLUI メキシカン・レイバー・ビューローへ重要な通知を出す（РГАСПИ, 495/18/66/113）。この紹介以降は、章を改めて取り扱う。

6 パンアメリカン・エイジェンシーの解散

エイジェンシーの解散問題で片山は、1921年9月16日にブレイへ以下のように厳しく通告した⁽⁷²⁾。

あなたの最近の書簡は、あなたがあなたに対するエイジェンシーの権威もその機能も認めていないことをまったく明らかにしている。全般的権威は集団的にエイジェンシーに帰せられるが、その議長として私自身にヨリ帰せられる。その上、エイジェンシー（そしてとくにあなた自身）は合州国に対して信任されているとあなたは想像しているように思える。しかし、そうではない。というのはエイジェンシーの仕事はいまやラテン-アメリカに限定されているから（カナダも一部）。

あなたはあなたが合州国にとどまるいかなる理由も与えていない。あなたは（エイジェンシーも）、本社からアメリカの会社〔CPA〕への指示とは何ら関係ない。L[egal]. P[arty].の組織化については、アメリカの会社の仕事だ。元々、あなたが即刻ここに来ることは6カ月前に同意されていた。しかし、あなたはこれらの指示を無視し、回避的な返事をし、エイジェンシーの仕事をサボタージュしてきている。

それゆえ、エイジェンシー議長として（そして Lilbit の同意で）、

1) 私はエイジェンシーのメンバーとしてのあなたへの権限付与を一時的に取り消し、あなたが合州国に残る限り代表としてのすべての権威をあなたから奪う。あなたが〔メキシコの〕エイジェンシーを訪れる時、あなたの権威は復活するであろう。

2) 私はあなたの手元に残っているかもしれないいかなる金も使うことを

あなたに禁ずる（指示を実行することにおけるあなたの費用は別にして）。

3）私はアメリカの会社の取締役たちに、この行動を通知し、彼らにあなたとの関係をもたないように求める手紙（РГАСПИ, 495/18/66/115）を書いている。

4）もしも私がこれらの指示を受諾する電報をあなたから受け取らないならば、私は本社へあなたの驚くべき信じられない行為と規律の欠如について書くだろう。

ブレイの方も行き違いで、同日9月16日にヤヴキ商会へ厳しい通告を行った（РГАСПИ, 495/18/66/121）。

本社は当面いかなる援助も与えないとの事実のゆえに、当地の会社〔CPA〕、北会社〔カナダ共産党か〕および私はすべてこわされている。〔以下、千ドル送金依頼のための理由が挙げられている。〕

私は、Yav[ki]氏が直ちに本社を訪問するであろうとのB.B.CO[MP]・〔本社〕からの電報を受け取っている。それゆえ私あるいは昨日到着したアレン氏は、あなたが指示しないならば南へ出かけないだろう。私は戻って来ている人から、本社においてはエイジェンシーもまた廃止されるであろうとの感情が広がっているとの情報を与えられている。きっとYav[ki]はもはやここには戻らないであろう。なぜならば大いに重要な仕事が向こうで彼を待っているから。

そのエイジェンシーの解散問題に先だって、RLUI臨時メキシカン・（レイバー・）ビューローの廃止について、片山は同じく9月16日に同ビューローへ重要な通知を出した（РГАСПИ, 495/18/66/113）。

私は5日前に、7月の大会で選ばれたRLUI〔プロフィンテルン〕の新執行委員会からの指示を受け取った。つまり、赤色インタナショナルのすべてのビューローは、ドイツ、イギリス、合州国、メキシコなどにおいて廃止された。RLUIに加盟した組合は、ビューローを通じてではなく、モスクワの執行委員会との直接的な関係をもつだろう。それゆえ我々は、メキシカン・ビューローがこれによって精算されることをあなたがたに通知しなければな

らない。

そのビューローの廃止を受けてであろう、1921年9月19日に片山はメキシコ共産党組織委員会へ、ビューローの一部肩代わりを含めた以下の提案を行った⁽⁷³⁾。

〔エイジェンシーの〕指示は全般的で助言的である。つまり、エイジェンシーはここではメキシコの同志をただ単に支援するだけである。共産党の組織化の現実的仕事は、メキシコの同志によって、組織委員会によって実行されなければならない。組織委員会はその責務と権限を認識することが必要だ。共産党を組織するため12月に大会を組織する仕事を精力的かつ意識的に始めることが必要だ。

我々は以下の提案をする。組織委員会のメンバーから二つのビューロー、すなわち労働組合ビューロー（a Labor Union Bureau）と政治ビューロー（a Political Bureau）が形成されるべきである。前者は1）RLUIのためのプロパガンダについて専念する。2）労働組合の中の共産主義グループを組織する。3）労働組合機関紙の刊行を監督する。4）労働組合、つまりCGTとCROM両方における共産主義活動について全般的に専念する。

後者は以下に専念すべきである。1）さまざまな社会主義諸党の中の左翼および共産主義グループを組織するためにそれらの中での活動について。2）農民の中への仕事、共産主義グループを組織し、それらの中へのプロパガンダを指揮すること。3）非労働組合の共産主義グループの組織化。4）『共産主義労働者』（*El Obrero Comunista*）〔1921年8月18日週刊誌として創刊〕の刊行を監督すること。

各ビューローが独立的であることを意味しない。全体の組織委員会が週に一度は集まるべきである。組織委員会がする必要のあるものの中には、以下がある。／……／11）組織委員会はその仕事のために即刻金の調達に取りかかるべきである（労働者への訴え、集会、可能なすべての方法で）。なぜならば、モスクワからの財政支援はたぶん続けられるであろうが、しかしそれはメキシコ共産党が独立して自己調達する限りにおいてのみであろうから。こ

のことは重要である。

1921年9月24日に片山はジノヴィエフへ、1921年1月8日に任務について以来のエイジェンシーの全体状況を再検討する書簡を送った⁽⁷⁴⁾。それはこれまでの報告と重なるところが多く、それに（本稿では正面から取り上げない）財政報告が加えられているものであり、末尾だけを挙げておく。

メキシコは、私が過去6カ月経験したように、非常に不便な場所である。南北アメリカ間の商業関係がよく確立されているゆえに、中心としてニューヨークがよいであろう。しかし、南アメリカのプロレタリアートは、両大陸間に今日存在する或る偏見ゆえに、アメリカ人の話に喜んで耳を傾けない。〔他方〕アメリカ〔合州国〕の同志はラテンアメリカの労働者を見下すことに慣れている。個人的に私は、エイジェンシーの中心地の選択は結局のところ賢明だと思う。メキシコは中米はもちろんのことラテンアメリカにおける共産主義運動のまさにその鍵である。

続いて9月28日に、片山はフレイナとともにИККИ小ビューローへ以下の報告をした⁽⁷⁵⁾。メキシコに関する以前の諸報告の続報については省略するとして、これも末尾だけ挙げておく。

ニューヨークから我々に届いたコミンテルンがアメリカン・エイジェンシーの清算を考えているとの噂についてであり、もしもそれがほんとうならば、我々はあなたがたに、メキシコへあなたがたの代表として有能な共産主義同志をここで支援活動するために送るよう提案する。そうでなければ、運動はばらばらになるであろう。

最後の配慮こそコミンテルン本部にとっては意識の外にあったと言わざるをえない。それどころか、同本部では、パンアメリカン・エイジェンシーの解散前にすでに新たな計画が練られていた。すなわち、1921年9月28日、ИККИ書記局においてラテン-アメリカ・セクションの任務と組織計画が立案されていた⁽⁷⁶⁾。セクション長ヤロシェフスキー（М.Е. Ярошевский）による案では、詳細は割愛するが、ラテンアメリカの国々が三つのタイプに分類され、それぞれに見合った任務が定められていた。

スコットからの書簡（9月16日付であろう）を受けて片山は、翌9月29日にトムソンへ次のような重要な考えを伝えた（РГАСПИ, 495/18/66/133； 495/79/2/4）。

〔コミンテルン〕第3回大会はとうの昔に起こり、もしも彼らがアメリカン・エイジェンシーを廃止することを決定したのなら、それをとうの昔に我々へ伝えたはずだ。彼らは我々にそう伝えなかったので、私は政治的には彼らはそれを廃止しなかったと考える。エイジェンシーの廃止に関する噂は、エイジェンシーではなく RLUI〔のパンアメリカ評議会〕に関わる。

私のメッカ〔モスクワ〕行は、エイジェンシーが廃止されようとしているとの考えと結びつけられるべきではない。メッカ行はとうの昔、第3回大会直後〔1921年8月26日〕に決定されたとの同志田口〔運蔵〕の書簡から私が知っているように。私はパスポートを得るや行かなければならない。私は発つので、あなた〔フレイナ〕をエイジェンシーの議長代理として任命する。

1921年10月8日、ヤヴキは再度ブレイヘ返答した⁽⁷⁷⁾。「直ちにここに来い」との指令について、いまあなたが我々エイジェンシーの指令に従わない理由は、自分が B.B. Comp. (M.O.) からここにとどまり、待て等々指示されたからだと言う。あなたはそのような重要な指令をまったく我々に語らなかった。〔すぐに伝えていたなら〕我々は多くの時間と金を費やさなかったにちがいない、と。

そして、エイジェンシーは財政的には清算されているけれども政治的にはまだそうされてはいない、との立場のもとに手持ち資金の処理を決定し、F[raina]. がエイジェンシー議長代理となる予定であり、エイジェンシー業務をたたむ最終責任を委ねられたことが伝えられた。

なお、同時期（10月9日）、ジノヴィエフはアメリカの「友人たち」へ以下のように忠告した（РГАСПИ, 515/1/38/78〔露語〕； 515/1/38/79〔英訳〕）。アメリカのロシア人同志たちはアメリカにおいて合法的党創設で急ぐ必要はないとの意見である、と我々は知らされている。これは我々にとっては非常に大きな過ちであるように思える。合法紙（と地方諸紙）を創刊することが必要だ、と。

この統一戦線戦術に通ずる立場は、この時の片山には遠く、スコットには近いものであった。ここらあたりにエイジェンシーのメンバー間の対立に対して、シノヴィエフがスコットの方に耳を傾けやすい一因があったろう。

1921年10月10日（下書きの日付は10月4日）、片山とフレイナは連名による ИККИ 小ビューロー宛報告としては最後になるものを送った⁽⁷⁸⁾。エイジェンシーと CPA の良好でない関係についてのみ取り上げると、こうである。

統一後、アメリカの党執行部は我々を無視してきている。我々はアメリカの党執行部へ共同を提案する書簡（同封）を出したが、執行部はまったく共同を拒絶した（返答同封）。執行部がエイジェンシーの存在に唯一注目するのは、我々に金を借りることを求めるためである。

アメリカの党の態度の一部の責任は、エイジェンシーの他メンバー、ヤンセン（スコット）に帰せられる。ヤンセンは6ヵ月合州国にひとりとどまり、その間我々に一つの財務報告も提出しなかった（我々の割当額の約60%を費やした）。そのうえ我々は、ヤンセンがエイジェンシー・メンバーとしての権威を、統一された党内の分派的紛争において以前の UCPA を援助することに利用してきていると感ずる。我々はヤンセンがあなたがたに合州国およびカナダでの彼の活動に関する報告を送ったかどうか知らないが、たとえ送ったとしても、彼は我々に（最初のカナダの報告を除いて）その写しを決して送ってきていない。あなたがたのもとへ来つつある同志〔つまり片山〕が、これらの問題すべてについてより詳細に報告するであろう。

実は同10月10日、先のラテン・アメリカ・セクション創設計画に続いて、モスクワの ИККИ 幹部会会議において、「〔パンアメリカン・〕ビューローは解散される」ことが決定されていた⁽⁷⁹⁾。そのことを片山らは知る由もなかった。

スコットの方は、1921年10月15日にジノヴィエフへ長文の報告書を出した⁽⁸⁰⁾。本稿に関連の深い箇所だけを抜粋しておく。

アメリカ共産主義諸党の合併は、パンアメリカン・エイジェンシーの多数派、片山ととくにフレイナがあなたがたの権限付与を利用すると同様に彼らの決定を実行するに際して明確で正当と認められる立場をとらなかったゆえ

に、遅れた。また、トムスキー（М.П. Томский）によって与えられた労働組合での仕事は、エイジェンシーのためにはあまりに多かった。というのはこの領域はおそろしく複雑で紛争的である。その上、エイジェンシー自身がこの仕事の事情にほんのわずかししか精通していなかった。指令に応じて、エイジェンシーは公然とではなく労働組合内の共産黨員を通じてしか活動できなかった。

K[atayama] がメキシコに向けて去り、私だけがとどまった。私は労働組合内に煽動の中心を組織することに成功した。私はロゾフスキーのパンフレット3つを10万部刊行し、労働組合への態度に関する我々のアピール100万部、労働組合週刊誌（*The Voice of Labor*）の刊行を組織し、一労組代表〔W.Z. Foster〕を RLUI 大会のためにモスクワへ送った。

政治領域において最初に、私はアメリカの両 CP を統一することに成功した、第2に、ヒルキットの社会党において分裂のイニシャティヴをとり、実施し、第3に、カナダに非合法の CP を組織し、第4に、カナダで合法の週刊誌を刊行しはじめ、第5に、合州国で5名の投獄された共産主義者を合法的に釈放することに成功した。

〔メキシコについて〕現在まで何も積極的なものはなされていない。「統合」の仕事の数カ月後いかなる C.P-s [Communist Parties] も存在しないので、そのような仕事のために何らの正当化もない。片山とフレイナは新しい CP 形成のための呼びかけを発した（その詳細は同封のメキシコに関する報告の中に含まれている）。この報告では物事があまりにバラ色の様相を呈しているように私には思える。大いに語っているが、結局はそこから何も出てこないだろう。

最後に、4項目から成る「私の提案」が掲げられているが、第1項は「パンアメリカン・エイジェンシーの即時の解体」であり、フレイナが保持している資金（約20,000ドル）の割り振り〔内訳略〕と、片山は「東方〔別版では、極東〕問題に非常に役立つだろう、その一方ここではほとんど役立たない」の判断にもとづく彼のモスクワ派遣要求であった。

以上の抜粋のうち例えば、アメリカ共産主義両党の合併の遅れに関する自らの失敗は不問に付されるなど、あくまでヤンソン個人の、しかも過大評価気味の判断が目につくと言わざるをえない。その一方で、片山らに楽観的な大言壮語のきらいがあるとの指摘はポイントをおさえていたであろう（下記参照）。

1921年10月28日、片山は猪俣津南雄夫人「鈴」（バルタ）を伴ってベラクルスから出帆した。その片山の到着を待たずモスクワでは、11月9日、ИККИのCPAメンバー〔B[aldwin].か〕が以下のようにコミンテルン書記局へ申し出た（РГАСПИ, 515/1/39/146）。ИККИ幹部会が「アメリカン・エイジェンシー」あるいは「コミンテルン・パンアメリカン・ビューロー」の清算を命令し、そのエイジェンシー所有の資金の80%がCPAへ、20%がメキシコにおける共産主義運動の適切な代表に引き渡されるべきと決定した事実のゆえに、私はいま〔フレイナへ資金引き渡しを求める正式命令が即刻送付されるべきことなどを〕要求する、と。

1921年11月23日にベルリンに到着した片山は、同志を介してジェームズ、すなわちライヒとの接触を数度試みたが失敗に終わった。片山はパンアメリカン・エイジェンシーの「財政問題を解く」ため、西欧書記局の資金を一手に握っていたライヒと「会うことを非常に欲した」のだった（РГАСПИ, 495/18/66/154）。

モスクワに到着した片山が極東諸民族大会準備の合間をぬって書き上げたИККИ小ビューローのメンバー宛1922年1月10日付長文報告⁽⁸¹⁾によれば、「エイジェンシーが遭遇したまさしく最初の困難は、ベルリンに残された金をエイジェンシーが得られなかったことである」。エイジェンシーの財政問題は別稿で改めて論ずるつもりだが、アムステルダム・サブビューローの資金もそうであったように、ここでも西欧書記局の非協力的態度が躓きの一因であった。

なお、片山がベルリンに到着した1921年11月23日、モスクワではプロフィンテルン執行ビューロー会議において、メキシコから届いた片山の書簡が読み上げられ、審議の結果、AFL会長ゴンパースが主導する汎アメリカ労働総同盟に対抗する革命的汎アメリカ労働総同盟創設のためのイニシャティヴを同ビュー

ローがとることを要請した片山提案が斥けられた。類似組織の創設はアメリカ大陸労働者の地方割拠主義（партикуляризм）をさらに強化しうるものとみなされたからであったし⁽⁸²⁾、その背景には上述のコミンテルンの「右」転換があった。

年が改まった1922年1月2日、エイジェンシー議長代理となったフレイナは引き継いだ業務についての「メキシコに関する以前の諸報告を補足する最終報告」をИККИ小ビューローへした⁽⁸³⁾。その中で12月25-30日に開催された〔共産党大会ではなく〕メキシコ共産党創設のための〔共産主義者〕大会の概略報告や「アメリカの党がメキシコにおける我々の仕事を完全に無視した」ことの例示などがなされたが、ここでは自分たちの反省が記されている箇所だけ紹介する。すなわち、〔ИККИからの財政支援の可能性に関連して〕片山と私はいくぶん状況の判断を誤り、運動は現実よりもより大きい、あるいはより大きくなされうと想像した。それゆえ我々の計画は達成されうるよりも大きく、費用も一致して大きかった、と。

ここには、上記のスコットによる批判と確かに符合するところがある。しかし、（本稿では取り上げず、『コミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシーの基礎的研究』に譲るが）その一方で、スコットの財務報告は片山のそれに比べてあまりにも秘密主義的であった問題もある。本「最終報告」の末尾に「片山が残した指示に従って、私は南米に赴こうとしつつある。最初、アルゼンチンに行き、南米の残りの国々と関連して当地の党と一緒に行動するつもりだ」と記したフレイナは、巨額と思われる金をもち南米へ向かったまま消息を絶ち、使途不明金問題での汚名を着せられることになる。この問題の決着は、パンアメリカン・エイジェンシー全体の財務問題というテーマで後日つけたい。

お わ り に

1921年12月のおそらく11日深夜モスクワに到着した片山は、上記1922年1月10日付長文報告を書き上げ、それはレーニンへも「どうかそれに目を通しても

りたい」との片山の強い意向から1月12日付の短い書簡とともに送られた⁽⁸⁴⁾。重要であるその内容については、繰り返しが多くなるので以下の一箇所だけを取り上げる。

南北アメリカの共産主義運動は、最初にアメリカ帝国主義とその資本主義の打倒をめざすべきだと私は考える。メキシコや南アメリカ諸国における強い共産主義諸党がなければ、力強いCPAによって指導されたアメリカ共産主義運動でさえ、アメリカ資本主義に激しく一撃をくらわすことができないだろう。なぜならアメリカの資本主義と帝国主義はそれらの国々に広く基礎をおいてきているから。メキシコは中・南米への要所であり、南北アメリカの連結環である。コミンテルンは強いメキシコ共産党を必要とし、それをアメリカ資本主義の帝国主義に死の一撃をくらわすであろうアメリカン・コムニスト・インタナショナル（American Communist International）の連結環とする。

CPA側からもモスクワ滞在のИККИアメリカ代表カーことカターフェルドが、1922年3月30日にИККИ書記長クーシネン（O.W. Kuusinen）へ以下の反論を提出した（РГАСПИ, 515/1/93/35-35 об.）。私が返答しないでおいてちょうど見つけたフレイナと片山からの添付された通信について、私は言いたい。CPAは片山が考えているようにはアメリカン・エイジェンシーと連絡を断っていなかった。党はニューヨークのAA代表スコットと絶えず接触していて、すべての党の事柄について彼に十分知らせつづけていた。AAが適切に機能しなかったならば、それは我々の過失ではなかった、と。

その反論は、スコットが果たした役割をうまく利用して、問題があるとすればそれはエイジェンシー内部の問題だと言わんばかりの突き放し方であった。両者の言い分はことごとくかみ合わなかった。

1922年7月14日、数日前受け取ったばかりの片山からの書簡への返事をヴォークが活動名シュティルナー（A. Stirner）で書いている（РГАСПИ, 521/1/74/2-3）。当地の近況報告がなされ、そこにはパンアメリカン・エイジェンシーの活動の終熄が、以下のように記された。「F[raina]. から昨年12月にここ

を発って以来いかなる書簡も我々は受け取っていないし、彼が目下どこにとどまっているのかもわからない」。「合州国における C.P.の人々に対して、我々は声明書等を共同で刊行するより緊密な共同作業に関して数度手紙を書いた。しかし、いかなる返答も得られなかった。かの地の人々はメキシコを絶対に無視してよいものとみている。確かにメキシコは世界政治の中で第一級の役割を果たさないが、しかし合州国の同志たちは、国際的な仕事のためには中南米諸国により多く関心をもつべきだ」。

ここには、メキシコ側からみた言い分が繰り返されていた。一方片山は、その年初め極東諸民族大会への出席を皮切りに、終焉の地となるモスクワで新たな活動を開始していた。

以上、パンアメリカン・エイジェンシーの顛末をみてきた。

モスクワから全世界へ革命を波及させようと世界的規模で行動する初期コミンテルンは、遠く離れたアメリカ大陸に実際何をもちたか？ 革命的諸力を呼び起こし、鼓舞し、強化したか？ それとも逆に、アメリカ大陸での共産主義者の挫折に寄与したか？⁽⁸⁵⁾ ドイツ・ロシア共同の最新コミンテルン研究計画の推進者のひとりによる問題提起に正面から答える段階では未だない。にもかかわらず、本稿が解明しえた問題点は多岐にわたる。その主なものを（場合によって、それに関連する課題も含めて）最後に挙げておく。

1) ИККИ はアムステルダム・サブビューロー、さらにすべての在外ビューローの一旦解散を一方的に決定したすぐあとに、東アジアとアメリカにおいてだけ特別に二つの在外ビューロー（エイジェンシー）を認めるに値する理由を受け入れた。にもかかわらず、結局在外ビューローの権限がいままで以上に制限され、かつ「政治的任務の遂行」に関して当初から曖昧さが内包されており、それゆえ混乱の收拾をはかるために今度もまた ИККИ によって一方的にパンアメリカン・エイジェンシー解散指令が出されることになった。たとえ解散するにしても、片山が事業の継続性を強く訴えたことに正面から応えることなく、それどころか実は、解散指令が出される前にすでに ИККИ 書記局によって新た

な類似の組織がこれまた一方的に計画されていた。

2) 在外ビューローは各国共産主義諸組織と ИККИ との間の仲介的役割を担わされたにもかかわらず、実際には ИККИ からの指令系統が二つあった。すなわち、パンアメリカン・エイジェンシーを通じてだけではなく、在モスクワの CPA および UCPA 代表を通じてのものが、アメリカ共産主義両党間の対立も手伝って混乱が避けられなかった。

3) その両党間の対立の溝は深く、とりわけ UCPA へ合流しなかったロシア連盟を中心とした CPA⁽⁸⁶⁾の、相互に歩み寄る余地をほとんど残しえないほどの断乎とした立場が貫かれ、アメリカ合州国における共産主義運動自体へのそのマイナス効果が憂慮されていたのだが、その立場はまたエイジェンシーによる両党統一工作を困難化させる主要因となった。

4) 両党間の対立は明らかにスコットに影響を及ぼし、彼にはどうしても自らの出身母体となっていた UCPA への肩入れがあった。ただし、CPA 出身のフレイナおよび片山には CPA への肩入れは同党の傍流となっていたこともありとくにはなかった。加えて、片山とスコットとの間では、資質の問題も関わっていたであろう以下のような対立があった。一方は通信において多くを語り、金銭的にもきちんとし、他方はほとんど語らず、財務報告すら逐一しなかった。また、一方は自分たちの活動の成果への楽観視の傾向が強く、他方はかつて在米ラトヴィヤ社会主義者グループの中央派の中で左派に位置していた経歴があり⁽⁸⁷⁾、現実主義的な傾向が窺われた。両者の対立ゆえにエイジェンシーの権限の分散が生じかねず、そのため CPA にとっては在米スコットと接触しておけばよく、エイジェンシーが機能しないことの責任は CPA 側にはない、と統一後の CPA にエイジェンシーは突き放されもした。

そして三人目のフレイナの活動には、かつてアメリカ・レフトウィング運動で活躍した生彩はなかった。最初、エイジェンシー資金の運搬役としてのフレイナのベルリン滞在および再滞在は、なぜか長すぎ、さまざまな疑念を生んだ。そして最後、かつてのスパイ嫌疑が晴れたあともなおフレイナには嫌疑がくすぶり続け CPA からの信頼を回復しがたかった中で、エイジェンシーの

残された資金の横領嫌疑が再び彼にかけられた。それだけではなく、メキシコに遅れて来たあとフレイナの活動の中に積極性を見い出すのは困難である。すでにこの時期、フレイナの中に共産主義からの離脱が意識されはじめていたのか。それとも、かつて考察したように⁽⁸⁸⁾、理論的急進化の先導者であったフレイナは、本質的に実践的ではなかったというのであろうか。その解明が残されている。

5) エイジェンシーが「最大限の関心」をもったアメリカ共産主義両党に、エイジェンシーの権限が認められず、逆にその資金だけがあてにされた。当初ИККИは各国共産主義諸組織に対して資金援助する場合、直接ではなく在外ビューローを介して行うこととしたからであった。加えて、エイジェンシー内外で金銭トラブルが絶えなかった。コミンテルンの世界的規模での運動にとって、資金の問題は運動の評価に関わる本質的な問題であり、エイジェンシーにとってもまた資金の分析による活動の把握は重要である。エイジェンシーの資金問題の追究は、次の課題である。

6) エイジェンシーの運動は果たしてどれほどの成果を収めたであろうか。エイジェンシーは、両アメリカ大陸を対象にコミンテルン期でおそらく最も広範囲にわたるネットワーク形成をめざし、曲がりなりにも最初の足跡を残した。けれども、アメリカについてはその成果を発揮する前提が、上述のようにそもそも整っていなかったと言えよう。メキシコについては、エイジェンシーが精力的に現地の諸組織と接触を試み、スペイン語機関誌、声明等で訴えようとしたが、その成果の包括的評価は現地側からの史料収集・分析を経なければ下しがたい。けれども史料自体が乏しい現状がある。あと、スコットが精力を傾けたカナダ共産党およびその合法の労働者党創立などの成果⁽⁸⁹⁾、およびアルゼンチンなど南米へ派遣されたコーエン夫妻の乏しい成果⁽⁹⁰⁾を確かめる作業が残されている。

7) アメリカ共産主義両党と他のアメリカ大陸の諸党との関係は、エイジェンシーの努力をしても築かれたとはとても言いがたく、両アメリカ大陸のネットワークが構築されるにはあまりにさまざまな障害が立ちはだかっていた。一

例をあげれば、パンアメリカン・エイジェンシーの名称は合州国においてはしばしば「パン」を省いて使用された。そのことは時として、中南米を意識の外においていたからであった。その上、上記片山の1921年9月24日付ジノヴィエフ宛書簡に垣間見られるCPA側の優越意識のような偏見が広がっていたとするならば、ネットワークどころではなくなる。

いずれの問題点も、今後コミンテルンが指揮するエイジェンシーと同様な越境する在外活動の困難を予測させるに足るものであった（それはまた、これから日本共産党がコミンテルン在外ビューローとどのように関わっていくのか、をみていくうえでの一準拠枠〔a frame of reference〕を提起したとも言えよう）。大西洋を跨ぐような広域ネットワークの形成ではなく、個別地域とモスクワを結ぶネットワーク形成がより現実化していく。それ以上にコミンテルンは、仲介組織としての在外ビューローではなく、むしろ各国支部＝共産党と直接的な関係を結び、それらを統制する方向へと力を注いでいくであろう。

〔付記〕本稿は2004～2006年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）による研究成果の一部である。

注

- (1) L. & V. Kheifetz, “Michael Borodin. The First Comintern-emissary to Latin America (Part One),” *The International Newsletter of historical Studies on Comintern, Communism and Stalinism*, Vol.2 (1994/95), No.5/6, 148; В.Л. Хейфец, “Провал континентальной революции: Коминтерн и эволюция левого движения Мексики в 1919-1921 гг.,” *Россия контексте мировой истории. Сборник статей* (Санкт-Петербург, 2002), 254-256; *Коминтерн и Латинская Америка. Сборник документов* (Москва, 1998), 18-19; cf. B. Carr, *Marxism & Communism in Twentieth-century Mexico* (Lincoln/London, 1992), 27. 本稿では、在メキシコ活動家についての略歴は、一部を除いて割愛する。ほとんどが掲載されている以下の初の本格的人名辞典を参照（ただし、増補改訂版も出されたものの、不明確な記述がなお散見する）。Л.С. Хейфец, *Латинская Америка в орбите Коминтерна (Опыт биографического словаря)* (Москва, 2000); L. Jeifets/V. Jeifets/P. Huber, *La Internacional comunista y*

América Latina, 1919-1943. Diccionario biográfico ([Genève], 2004). ここでコミンテルンとラテンアメリカ関係史研究について触れておくと、上記ラザリ・ヘイフェッツとヴィクトル・ヘイフェッツ親子が目下ルガスビ史料を駆使して（最近ではメキシコのアルヒーフ史料も一部使って）精力的に研究を進めているが、以下の理由で本稿が彼らの研究に依拠するところは多くない。すなわち、1）時として史料引用が忠実とはいえない；2）パンアメリカン・エイジェンシーのアメリカ合州国における活動の追究が不十分であり、後述する片山とスコットことヤンソンの深刻な対立などが掘り下げて捉えられていない；3）エイジェンシーの名称が的確に記されず（当事者たちの正式署名を無視している）、そもそもコミンテルンのエイジェンシーと後述するプロフィンテルンの下部組織との区分が不十分である。

- (2) 山内『リュトヘルスとインタナショナル史研究』, 299.
- (3) Records of the Federal Bureau of Investigation [1908-1922], RG 65 [hereafter cited as Records of FBI], File No. OG247149, National Archives and Records Administration, Washington, D.C.; Л.С. Хейфец, *Коминтерн в Латинской Америке: формирование и эволюция организационных связей III Интернационала и его национальных секций (от зарождения коммунистического движения до создания Южноамериканского секретариата ИККИ)* (Санкт-Петербург, 2004), 24. なお、ボロジンの先駆的伝記として以下の二書がある。Lydia Holubnychy, *Michael Borodin and the Chinese Revolution, 1923-1925* (Published for East Asian Institute Columbia University by University Microfilms International, 1979)；D.N. Jacobs, *Borodin. Stalin's Man in China* (Cambridge, Mass./London, 1981). しかし、以下に掲げる理由で、いずれも本稿では依拠しえない。前者は回想類の記述を一旦額面通りに受けとめようとしたうえで、どのように考えれば辻褄があうか論理的に説明することに力を注いでいるが、肝心の記述自体が誤っている場合、その説明が意味をなさなくなる。後者も回想類は別として第一次史料に拠らず、かつドキュメンテーションの粗さが散見する。ボロジンによる「ツァーリの宝石」密輸についても、ロイの回想をはじめ諸説紛々で逐一紹介しないが、いずれも未だ史料によって確認されたとは言えない。M.N. Roy's *Memoirs* (Bombay, 1964), 196-203；cf. L. & V. Kheyfetz, "Borodin (Part One)," 147.
- (4) Владимир Ильич Ленин, *Биографическая хроника*, Т.7 (Москва, 1976), 96；L. & V. Kheyfetz, "Borodin (Part One)," 145；Л.С. Хейфец, *Коминтерн в Латинской Америке*, 21-22.
- (5) Records of FBI, OG247149. ちなみに、ロシア国立経済アルヒーフ（РГАЭ）に保管されている国立銀行の文書中に、ボロジンが外務人民委員部のために1920年7月17日に金貨200万ルーブリを受領したとか、同じく10月1日に100万金[金貨か]ルーブリをヴェ

初期コミンテルンとアムステルダム・ニューヨーク・メキシコシティ（下）

- リチコフスキー（Величковский）を通じて支給されたとかの記録があるとのことであり、それらの使途目的の解明が待たれる。А.М. Гак, “О судьбе золотого запаса России (1918-1920 гг.),” *Новая и новейшая история*, 1993, No.6, 153-154.
- (6) L. & V. Kheyfetz, “Borodin (Part One),” 148.
- (7) РГАСПИ, 495/108/3/1-2; *Коминтерн и Латинская Америка*, 18-19; cf. L. & V. Kheyfetz, “Borodin (Part Two),” 185. ホセ・アレンは、1918年春以来米国軍情報部 (MID) への内通者となっており、その密告は1921年5月18日に手違いで逮捕され (第5章参照)、メキシコ国籍をもちながら一時合州国へ追放されるまで続く。Cf. D.K. Christopulos, *American Radicals and the Mexican Revolution 1900-1925* (State Univ. of New York at Binghamton, Ph.D. diss., 1980), 419-20, 435; 山内「在墨片山潜の書簡と草稿類, 1921年」『大原社会問題研究所雑誌』506号, I.2001, 39.
- (8) Л.С. Хейфец, *Коминтерн в Латинской Америке*, 30.
- (9) スペイン共産党前史に関してはミーカーの先駆的研究があるが、それは本稿が一部利用したルガスビ史料によって書き換えられる必要がある。近年ようやくルガスビ史料を本格的に利用したエロルサらの『親愛なる同志諸君 コミンテルンとスペイン、1919-39年』が刊行されたが、当該箇所に関しては同史料にもとづく詳細な記述が必ずしもなされていない。G.H. Meaker, *The Revolutionary Left in Spain, 1914-1923* (Stanford, California, 1974); A. Elorza/M. Bizcarrondo, *Queridos camaradas. La Internacional Comunista y España, 1919-1939* (Barcelona, 1999), 19-28.
- (10) РГАСПИ, 497/2/1/1-4; cf. L. & V. Kheyfetz, “Borodin (Part Two),” 185.
- (11) РГАСПИ, 497/2/1/12; cf. L. & V. Kheyfetz, “Borodin (Part Two),” 185; *El Soviet. Semanario de propaganda socialista* (México), Tomo 1, No.1, 13.X.1919, 1, 3.
- (12) Cf. Л.С. Хейфец, *Коминтерн в Латинской Америке*, 35.
- (13) Cf. *Roy's Memoirs*, 391-392.
- (14) “American Bureau of the International,” *The Communist. Official Organ of the Communist Party of America* (Chicago), Vol.2, No.3, 5.IV.1920, 1.
- (15) РГАСПИ, 497/2/2/146-147. 「Am. C.L.P.へ私はすでに答えている」とリュトヘルスはウェインコーブ宛1920年5月18日付書簡で記しているが (РГАСПИ, 581/1/47/107)、当の返書はリスト (上篇、注153) も含めて見あたらない。
- (16) そのことはリュトヘルスのパンクハースト宛1920年6月7日付書簡によっても確認できる。РГАСПИ, 497/2/2/199-200a.
- (17) “La Conferencia Comunista Pan-Americana,” *Boletín Comunista. Organo del Bureau Latino Americano de la Tercera Internacional* (México), Año 1, No.1, 8. VIII.1920, 7.

- (18) РГАСПИ, 495/2/1/99-99 об.; 495/2/3/97-97 об.; cf. Адибеков/Шахназарова/Шириня, 30.
- (19) РГАСПИ, 495/2/1/17-17 об.; Адибеков/Шахназарова/Шириня, 30-31.
- (20) РГАСПИ, 495/2/1/85; В.Л. Хейфец, “Панамериканское бюро Коммунистического Интернационала и Южная Америка. Миссия Генри Аллена,” *Латиноамериканский исторический альманах* (Москва, 2002), 138.
- (21) РГАСПИ, 495/2/1/103; cf. В.Л. Хейфец, “Панамериканское бюро,” 138-139; Адибеков/Шахназарова/Шириня, 30.
- (22) РГАСПИ, 495/18/65/2; 515/1/20/44. なお、アメリカ政府が1921年4月29日に押収した別版 (Records of FBI, BS202600-1775-368) では、署名がない代わりに、労働組合問題に関する2人委員会のメンバー “Benjamin” (CPA)、“McGee” (UCPA) がコーエンとドーソン (Dawson)、また黒人大会のための2人委員会メンバー “Sasha” (CPA)、“Clemens” (UCPA) がストークス ([Rose P.] Stokes) とルーセンバークと直かに記されている。
- (23) ラトヴィヤ出身のアンダーソンは、CPA 創立直前1919年夏に外国語別〔スラヴ系〕連盟を代表して訪露し、帰国途次1920年1-2月にИККИからの約2万5千ドルと言われる資金を紛失するトラブルを起こすことになる。Cf. “The Case of J. A-n [Anderson],” РГАСПИ, 515/1/61/31-35; Reprinted in: <http://www.marxisthistory.org> (edited with footnotes by T. Davenport).
- (24) ヘイフェッツらの人名辞典では、メニショイが約1年前リュトヘルスに同行してアメリカ合州国から帰国し、アメリカに関連する仕事に携わっていた経歴が抜けている。Л.С. Хейфец, *Латинская Америка в орбите Коминтерна*, 211; Jeifets/Jeifets/Huber, 113; 山内昭人「片山潜の盟友リュトヘルスとインタナショナル (Ⅷ)」『宮崎大学教育学部紀要』(社会科学), 79号, VII.1995, 2-3; 同「在露英語を話す共産主義者グループ」, 11, 21, 28.
- (25) それは同誌に1920年1月付でジノヴィエフの名で掲載された。*Коммунистический Интернационал* [hereafter cited as *КИ*] (Петроград), No.9, n.d. [closing date for editing: 22.III.1920], 1369-1382; 村田編訳, 92-103. アメリカにおいては、それは12頁だての小冊子 (*An Appeal by The Central Executive Committee of The Communist International to The I.W.W.*) として CPA 中央執行委員会によって刊行された。Cf. РГАСПИ, 581/1/108/99.
- (26) それは協定案として同誌に掲載された。*КИ*, No.9, 1409-1410.
- (27) РГАСПИ, 515/1/17/1-3; cf. *Revolutionary Radicalism. Report of the Joint Legislative Committee Investigating Seditious Activities, Filed April 24, 1920, in the Senate of the State of New York*, Part 1, Vol.1-2 (Albany, 1920), 1902-1907. *КИ*

への掲載は日付なしの第11号においてであり、(その編集締切日が1920年6月14日と印刷されているため) 1920年6月半ば以降の刊行であり、かなり遅くなっている。*KH*, No. 11, n.d. [closing date for editing: 14.VI.1920], 1887-1892; 村田編訳, 88-92. その際、文書の日付とジノヴィエフの名が消され、とくに本文末尾あたりで一部削除と書き換えが行われた。

- (28) Th. Draper, *The Roots of American Communism* (New York, 1957), 267.
- (29) РГАСПИ, 515/1/17/23; cf. Draper, 267-268.
- (30) РГАСПИ, 515/1/17/23; 495/1/24/82; cf. *KH*, No.14, n.d. [closing date for editing: 16.XI.1920], 2944.
- (31) РГАСПИ, 495/108/11/5-10; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Part 2, Doc. 4-1; cf. РГАСПИ, 495/18/66/196.
- (32) Cf. A. Resis, "Comintern Policy toward the World Trade-Union Movement: The First Year," J.S. Curtis (ed.), *Essays in Russian and Soviet History. In Honor of Geroid Tanquary Robinson* (New York, 1963), 237-252.
- (33) Cf. 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, 32-36; РГАСПИ, 515/1/45/1-4.
- (34) РГАСПИ, 495/108/11/5-10; 495/18/65/100-105; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 4-1.
- (35) РГАСПИ, 5/3/145/2-5; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 7-1.
- (36) Correspondence of the Military Intelligence Division of the War Department General Staff, 1917-1941, RG 165 [hereafter cited as Correspondence of MID], PF8178, NARA.
- (37) B. Gitlow, *The Whole of Their Lives* (New York, 1948), 46; cf. В.В. Позняков, *Советская разведка в Америке 1919-1941* (Москва, 2005), 344.
- (38) РГАСПИ, 495/18/65/39; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 2-1.
- (39) РГАСПИ, 495/18/65/62-65; 495/18/65/41-44; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 2-2.
- (40) РГАСПИ, 495/18/65/57-58; 495/18/65/54-56; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 2-3.
- (41) РГАСПИ, 495/18/65/70-73; 495/18/65/74-76; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-1.
- (42) H. Klehr/J.E. Haynes/K.M. Anderson, *The Soviet World of American Communism* (New Haven/London, 1998), 19.
- (43) Records of FBI, BS202600-1644-1; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 2-4.
- (44) Records of FBI, BS202600-1775-197.

- (45) РГАСПИ, 495/18/65/126-128； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 5-2.
- (46) РГАСПИ, 495/108/11/20-21； 495/18/65/150-151； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-4.
- (47) РГАСПИ, 495/108/11/22-23； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 4-2； cf. РГАСПИ, 495/108/11/5-10； 495/18/65/100-105； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 4-1.
- (48) *Official Bulletin of the Communist Party of America (Section of the Communist International) formed at the Joint Unity Convention of the UCP and CP* (n.p.), No.1, V.1921, 1-4.
- (49) Correspondence of MID, 10110-1581-103.
- (50) ハルトマンはイニシャルまで同じであることから、フレイナが編者となって1919年5月に刊行されたレーニン／トロツキー『ロシアにおけるプロレタリア革命』に訳者として協力し、そのあとマルテンス率いるロシア・ソヴェト〔政府〕ビューローの一員となるハルトマン (Jacob W. Hartman(n)) と同一人物ではなかろうか。山内『リュトヘルスとインタナショナル史研究』, 303-304； L0032, Box 1, File No.1, New York State Archives and Records Administration, Albany, New York.
- (51) РГАСПИ, 495/18/66/49-51； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 5-3.
- (52) *KH*, No.15, n.d. [closing date for editing: 20.XII.1920], 3373-3390.
- (53) РГАСПИ, 495/18/66/87； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 5-4.
- (54) РГАСПИ, 495/18/66/104-106； 515/1/128/29-31； Correspondence of MID, 10058-O-99-328 [リーガの合州国弁務官事務所によって複写された1922年8月1日付]； cf. 10058-24-155； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, 52.
- (55) РГАСПИ, 495/18/65/108-109； 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 3-1.
- (56) M. Gomez, "From Mexico to Moscow," *Survey*, No.53, X.1964, 33-47； No.55, IV.1965, 116-125； Ch. Shipman, *It Had to Be Revolution. Memoirs of an American Radical* [Ithaca/London, 1993].
- (57) РГАСПИ, 489/1/30/90； cf. Л.С. Хейфец, *Латинская Америка в орбите Коминтерна*, 173-174； Jеifets/Jеifets/Huber, 261-262.
- (58) Esther Corey, "Passage to Russia. A Personal Reminiscence, II," *Survey*, No.55, IV.1965, 109； Shipman, 128； Correspondence of MID, 10058-24-155； 10058-O-3-143.
- (59) Cf. Л.С. Хейфец, *Латинская Америка в орбите Коминтерна*, 66-67； Jеifets/Jеifets/Huber, 95-97.

- (60) 実際には、一日早く4月22日に『労働者』(*El Trabajador. Organo del Bureau Provisional Mexicano del Consejo Internacional de Sindicatos y Uniones de Trabajadores (Internacional Roja)*)は創刊された(以後、毎土曜刊)。Cf. РГАСПИ, 495/18/66/337-338.
- (61) 片山の第3インタナショナル同志たち宛1921年4月25日付報告, РГАСПИ, 495/108/11/20-21, 495/18/65/150-151; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-4.
- (62) РГАСПИ, 495/108/11/25; 521/1/17/15; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc.1-5.
- (63) РГАСПИ, 495/108/11/29-34; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-6.
- (64) 片山は同様の現地活動報告(6月4日付)をパンクハーストのもとへも送り、それは『ワーカーズ・ドレッドノート』7月30日の通信欄に載った。ただし、ヤヅキの名が“YAOKI”と誤記されたし、「メキシコの一日本人同志」とエイジェンシーの肩書は明記されなかった。“Correspondence,” *Workers’ Dreadnought* (London), Vol.8, No.20, 30.VII.1921, 8.
- (65) РГАСПИ, 521/1/17/54-58; 山内「在墨片山潜」, [史料] II-②.
- (66) РГАСПИ, 521/1/17/112-115; 山内「在墨片山潜」, II-⑦
- (67) РГАСПИ, 521/1/17/87; 山内「在墨片山潜」, II-⑧.
- (68) РГАСПИ, 521/1/17/91-92; 495/18/66/52-53; *Коминтерн и Латинская Америка*, 29-30 (Russian translation); 山内「在墨片山潜」, II-⑨.
- (69) Л.С. Хейфец, *Латинская Америка в орбите Коминтерна*, 45-46; Jeifets/Jeifets/Huber, 340-342; cf. E. Woog and H[umbert]. D[roz], 15.VIII.1920, Archives Jules Humbert-Droz, 550, Fondation Jules Humbert-Droz, La Chaux-de-Fonds.
- (70) РГАСПИ, 521/1/17/96-101; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-9; 山内「在墨片山潜」, I-⑩.
- (71) РГАСПИ, 495/108/11/36-41; 495/18/66/98-103; 495/108/10/24-29; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-10.
- (72) РГАСПИ, 495/18/66/116; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 5-5.
- (73) РГАСПИ, 495/18/66/119-120; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 3-3.
- (74) РГАСПИ, 495/18/66/122-124; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-11.
- (75) РГАСПИ, 495/18/66/42-46; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-12.
- (76) РГАСПИ, 495/79/1/1-2; *Коминтерн и Латинская Америка*, 30-31.
- (77) РГАСПИ, 495/18/66/165-167; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 5-7.

- (78) РГАСПИ, 495/108/11/47-50, 495/18/66/156-159, 495/18/66/237-240; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-13.
- (79) *Die Tätigkeit der Exekutive und des Präsidium des E.K. der Kommunistischen Internationale vom 13. Juli 1921 bis 1. Februar 1922* (Petrograd, 1922), 240; cf. Л.С. Хейфец, *Коминтерн в Латинской Америке*, 60-61.
- (80) “Report on the situation in the United States; the work of the Pan-American agency among the trade-unions of the U.S.; the situation in Canada, the Pan-American agency and Scott’s proposition,” РГАСПИ, 495/18/66/171-181 [以下の波線部は清書では空欄だが、下書原稿(495/18/66/245-246)によって埋められる]; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 6-1.
- (81) РГАСПИ, 5/3/145/2-5; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 7-1; 山内「在墨片山潜」, III-①
- (82) *Отчет Исполнительного Бюро Профинтерна II Международному Конгрессу Революционных Профсоюзов. Июль 1921 — Ноябрь 1922* (Москва, n.d.), 101; cf. 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, 74, 77-78. 片山書簡とは、日付なしの以下であろう。РГАСПИ, 495/18/66/372-374.
- (83) РГАСПИ, 495/108/22/1-4; 495/18/66/241-244; 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, Doc. 1-15. 最後期のエイジェンシーについての考察は、同報告書(77-79頁)を参照。
- (84) РГАСПИ, 5/3/145/1; cf. “Деятели Коминтерна — В.И. Ленин,” *Известия ЦК КПСС*, 1989, No.5, 211.
- (85) Cf. K. Meschkat, “Die Komintern in Lateinamerika. Biographien als Schlüssel zum Verständnis einer Weltorganisation,” M. Buckmiller/K. Meschkat (Hrsg.), *Biographisches Handbuch zur Geschichte der Kommunistischen Internationale. Ein deutsch-russisches Forschungsprojekt* (Berlin, 2007), 111.
- (86) Cf. 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, 30-31.
- (87) Cf. 山内『リュトヘルスとインタナショナル史研究』, 138-139.
- (88) Cf. 同上, 237-238.
- (89) 従来、スコットへの言及が回想や研究の中に散発的にあった程度だが(e.g., T. Buck, *Canada and the Russian Revolution. The impact of the world’s first socialist revolution on labor and politics in Canada* [Toronto, 1967], 88-89; W. Rodney, *Soldiers of the International. A History of the Communist Party of Canada 1919-1929* [Toronto, 1968], 35-39, 42-44, 48, 51-52)、目下エイジェンシーの研究環境はカナダ側も整いつつある。すなわち、1990年代に入ってカナダ国立図書・文書館がルガスビのコミンテルン・アルヒーフなどから関係史料を購入し、制限付きの利用が可能

となり、またロンドンの国立公文書館に保管されているカナダ連邦警察の報告書類の一部（例えば、スコットに関する密偵報告）が紹介されている。Cf. G. Bolotenko, “The National Archives and Left-Wing Sources from Russia: Records of the Mackenzie-Papineau Battalion, the Communist Party of Canada and Left-Wing Internationals,” *Labour/Le Travail*, Vol.37, Spring 1996, 179-203 ; G.S. Kealey, “The RCMP, the Special Branch, and the Early Days of the Communist Party of Canada: A Documentary Article,” *ibid.*, Vol.30, Fall 1992, 169-204.

- (90) Cf. 山内『パンアメリカン・エイジェンシー』, 75 ; В.Л. Хейфец, “Панамериканское бюро,” 137-150.